茨城県教育財団文化財調査報告第196集

西平塚梨ノ木遺跡

葛城一体型特定土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書V

平成14年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第196集

西平塚梨ノ木遺跡

にしひらつかなしのき

葛城一体型特定土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

平成14年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

序

茨城県は，世界的な科学研究の中心であるつくば市において，国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。平成11年度はその一つとして，海外との交流の場である国際会議場「エポカルつくば」を整備いたしました。また，新しい街づくりの一環として平成17年開通を目指して建設が進められているつくばエクスプレスは，都心部とつくば市を結ぶ動脈として，地域の活性化を進める役割が期待されております。

都市基盤整備公団茨城地域支社では，研究学園都市としてのつくば市の特性と地理的条件を勘案し，新たな交通網を備えた都市機能の充実と，良好な居住環境を持つ宅地の供給を目的として土地区画整理事業を進めております。

茨城県教育財団は，都市基盤整備公団茨城地域支社からつくばエクスプレス沿線地域にあたる葛城地区の土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査事業について委託を受け，平成７年から発掘調査を実施してまいりました。

本書は，平成13年６月から同年11月まで行った西平塚梨ノ木遺跡の調査の成果を収めたものであります。本書が，研究資料としてはもとより，郷土の歴史への理解を深めると共に，教育・文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理を進めるにあたり，委託者である都市基盤整備公団から賜りました多大なる御協力に対し，心から御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力を賜りましたことに衷心より感謝の意を表します。

平成14年３月

財団法人　茨城県教育財団

理事長　齋　藤　佳　郎

例　　言

1　本書は，都市基盤整備公団の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成13年度に発掘調査を実施した，茨城県つくば市大字西平塚字梨ノ木341-3ほかに所在する西平塚梨ノ木（にしひらつかなしのき）遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調　　査　平成13年６月１日～平成13年11月30日

整　　理　平成13年12月１日～平成14年３月29日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第二課長鈴木美治の指揮のもと，調査第二課第１班長萩野谷悟，主任調査員高野節夫が平成13年６月から11月，主任調査員川上直登が平成13年６月から８月，主任調査員横倉要次が平成13年９月から11月，嘱託鹿島直樹が平成13年10月から11月までそれぞれ担当した。

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理第二課長瓦吹堅，調査第二課第１班長萩野谷悟の指揮のもと，主任調査員高野節夫が担当した。

5　発掘調査及び整理に際し，御指導・御協力を賜った関係機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

凡　　例

1　当遺跡の発掘調査は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に拠り，Ｘ軸＝＋11,000m，Ｙ軸＝＋22,800mの交点を基準点（Ａ１a1）とした。

調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へＡ，Ｂ，Ｃ…，西から東へ1，2，3…とし，「Ａ１区」「Ｂ２区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…０とし，名称は大調査区の名称を冠し，「Ａ１a1区」，「Ｂ２b2区」のように呼称した。

2　遺跡・遺物・土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構　住居跡－ＳＩ　土坑－ＳＫ　溝－ＳＤ

遺物　土器・陶器－Ｐ　土製品－ＤＰ　石器・石製品－Ｑ　金属製品・古銭－Ｍ

拓本記録土器－ＴＰ

土層　撹乱－Ｋ

3　遺構・遺物の実測図中の表示は，次のとおりである。

黒色処理　焼土・油煙・煤　施釉

● 土器・陶器　■ 石器・石製品　▲ 金属製品

4　土層観察と遺物における色調の判定には，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は500分の1，遺構は60分の１に縮尺して掲載することを原則とした。

(2)　遺物は原則として３分の１の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

6　「主軸」は，長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長径方向」は主軸・長径が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例Ｎ－10°－Ｅ）。

7　遺物観察表の記載方法は次のとおりである。

(1)　土器の計測値の単位はcmである。

(2)　備考の欄は，土器の現存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3)　遺物番号については，土器，拓本のみ掲載の土器片，土製品，石製品，金属製品ごとに通し番号とし，挿図，観察表，写真図版に記した番号は同一とした。

8　遺構一覧表・遺物観察表等における計測値のうち，現存値は（　），推定値は［　］を付して示した。

抄　　録

ふりがな	にしひらつかなしのきいせき
書名	西平塚梨ノ木遺跡
副書名	葛城一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ
巻次	
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第196集
著者名	高野節夫
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２　ＴＥＬ　029－225－6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２　ＴＥＬ　029－225－6587
発行日	2002（平成14）年３月25日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
西平塚梨ノ木遺跡（にしひらつかなしのきいせき）	茨城県（いばらきけん）つくば市（し）大字西平塚（おおあざにしひらつか）字梨ノ木（あざなしのき）341-3	08220 ｜ 560	36度 ５分 20秒	140度 ５分 33秒	24～25m	20010601 ～ 20011130	31,396m²	葛城一体型特定土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西平塚梨ノ木遺跡	集落跡	奈良	竪穴住居跡　１軒	土師器（甕），須恵器（坏，蓋，盤，高坏，鉢）	奈良時代の集落跡があったと考えられる。また，石造物（五輪塔，宝篋印塔）が多量に出土していることから，中世の墓域であったことが窺える。１点ではあるが，板碑が出土している。
	墓地跡	中・近世	溝跡　５条 地下式壙　１基 井戸跡　３基 土坑墓　２基	石造物（五輪塔，宝篋印塔），板碑 金属製品（古銭，鉄滓） 土師質土器（小皿），陶器（平碗，花瓶，卸皿，縁釉小皿，丸碗，瓶）	
	その他	縄文 不明	溝跡　16条 土坑　224基	縄文土器片（深鉢），石鏃，磨製石斧	

目　　次

序
例　言
凡　例
抄　録
目　次
第１章　調査経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 2
第３章　調査の成果 …… 6
　第１節　遺跡の概要 …… 6
　第２節　基本層序 …… 6
　第３節　遺構と遺物 …… 7
　　1　奈良時代の遺構と遺物 …… 7
　　(1)　竪穴住居跡 …… 7
　　2　その他の時代の遺構と遺物 …… 10
　　(1)　溝　跡 …… 10
　　(2)　地下式壙 …… 16
　　(3)　井戸跡 …… 17
　　(4)　土　坑 …… 19
　　3　遺構外出土遺物 …… 25
　第４節　まとめ …… 39
写真図版

挿図目次

第１図　周辺遺跡分布図 …… 4
第２図　基本土層図 …… 6
第３図　第１号住居跡実測図 …… 8
第４図　第１号住居跡・出土遺物実測図 …… 9
第５図　第１号溝跡・出土遺物実測図 …… 11
第６図　第２号溝跡実測図 …… 12
第７図　第６号溝跡・出土遺物実測図 …… 12
第８図　第13号溝跡・出土遺物実測図 …… 13
第９図　第14号溝跡・出土遺物実測図 …… 14
第10図　第15号溝跡・出土遺物実測図 …… 15
第11図　第１号地下式壙実測図 …… 17
第12図　第１号井戸跡実測図 …… 17
第13図　第２号井戸跡実測図 …… 18
第14図　第３号井戸跡実測図 …… 18
第15図　第21号土坑・出土遺物実測図 …… 19
第16図　第35号土坑・出土遺物実測図 …… 20
第17図　遺構外出土遺物実測図(1) …… 26
第18図　遺構外出土遺物実測図(2) …… 27
第19図　遺構外出土遺物実測図(3) …… 28
第20図　遺構外出土遺物実測図(4) …… 29
第21図　遺構外出土遺物実測図(5) …… 30
第22図　遺構外出土遺物実測図(6) …… 31
第23図　遺構外出土遺物実測図(7) …… 32
第24図　遺構外出土遺物実測図(8) …… 33
第25図　遺構外出土遺物実測図(9) …… 34
第26図　遺構外出土遺物実測図(10) …… 35
第27図　遺構外出土遺物実測図(11) …… 36

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表 …… 5
第２表　溝跡一覧表 …… 15
第３表　井戸跡一覧表 …… 19
第４表　土坑一覧表 …… 20

写真図版

ＰＬ１　完掘状況（西から，東から）
ＰＬ２　第１号住居跡完掘状況
　　第１号住居跡遺物出土状況
　　第１号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ３　第12･13･14号溝跡完掘状況
　　第８号溝跡遺物出土状況
ＰＬ４　第１号地下式壙完掘状況
　　第１・２号井戸跡完掘状況
ＰＬ５　第21号土坑遺物出土状況
　　第35号土坑完掘状況
　　土坑集中区，第７・８・９号溝跡完掘状況
ＰＬ６　立石（お羽黒様，天神様）確認状況
　　五輪塔・宝篋印塔集積状況
ＰＬ７　第１号住居跡，第６･15号溝跡，遺構外出土遺物
ＰＬ８　第１号住居跡・遺構外出土遺物
ＰＬ９　第21号土坑・遺構外出土遺物
ＰＬ10　第１号溝跡・第35号土坑・遺構外出土遺物
ＰＬ11　遺構外出土遺物
ＰＬ12　遺構外出土遺物

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

茨城県は，世界的な科学研究の中心であるつくば市において，国際都市にふさわしい町づくりを推進している。平成17年度開通予定のつくばエクスプレスの建設とそれに伴う沿線の開発は，その一環を構成するものである。葛城地区においては，住宅・都市整備公団茨城地域支社（平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に名称を変更）を事業主体として，土地区画整理事業が行われている。

平成６年８月18日，茨城県知事は，茨城県教育委員会に対して，常磐新線（当時）沿線地域の開発を行うため，つくば市葛城地区の土地区画整理事業地内の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて照会を行った。茨城県教育委員会は，平成７年８月から同年12月にかけて現地踏査を，平成12年９・10月には試掘調査を行った。

その結果，開発予定地内において西平塚梨ノ木遺跡の存在を確認し，平成12年11月13日，茨城県教育委員会は，茨城県知事にその旨を回答した。平成13年３月27日，茨城県知事から茨城県教育委員会に対し，当遺跡（31,396㎡）の取り扱いについて協議があった。茨城県教育委員会は当遺跡の重要性に鑑み，また文化財保護の立場から慎重に検討を重ねた。そして，平成13年３月28日，茨城県教育委員会は茨城県知事あてに，当遺跡（31,396㎡のうち20,156㎡）を記録保存とする旨を回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

そこで，都市基盤整備公団茨城地域支社から財団法人茨城県教育財団に当遺跡の発掘調査の依頼があり，茨城県教育財団は発掘調査の委託契約を結び，平成13年６月１日から平成14年３月31日にかけて発掘調査を実施することとなった。

しかし，調査の進捗に伴い，遺構の分布が希薄であることが明らかになった。このため，平成13年９月17日，茨城県教育財団から茨城県教育委員会に当遺跡の発掘調査計画の変更について協議があり，これを受けて平成13年９月21日，茨城県教育委員会は都市基盤整備公団茨城地域支社と，発掘調査計画の変更について協議した。その結果，都市基盤整備公団茨城地域支社から茨城県教育委員会あてに，当遺跡の取り扱いについて回答があり，調査面積を追加して実施する旨の依頼があった。そこで，茨城県は，茨城県教育財団に対し，調査面積の変更を通知した。これにより，当初予定されていた当遺跡の調査面積（20,156㎡）に，11,240㎡を新たに追加し，合計31,396㎡の発掘調査を実施するとともに，平成13年12月から平成14年３月まで，整理業務を実施することになった。

第2節　調　査　経　過

西平塚梨ノ木遺跡の発掘調査は，平成13年６月１日から平成13年11月30日までの６か月間実施した。以下，調査の経過について，その概要を表で記載する。

項　　日	6　月	7　月	8　月	9　月	10　月	11　月
諸準備・表土除去・遺構確認	■	■	■		■	
遺　構　調　査			■	■	■	■
洗浄・注記・写真整理	■	■	■	■	■	■
補足調査及び後片付け						■

第2章　位　置　と　環　境

第1節　地理的環境

西平塚梨ノ木遺跡は，つくば市大字西平塚字梨ノ木341-3ほかに所在している。

遺跡のあるつくば市は，市域の北部を筑波山塊が占め，その他の大部分は標高約23m前後の筑波・稲敷台地と呼ばれる平坦な台地となっている。この台地は，西を南流する小貝川，東を同じく南流する桜川によって区切られており，その流域には沖積地が発達している。両河川の間にも東から花室川，蓮沼川，小野川，東谷田川，西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れ，台地を短冊状に開析し，その支流は樹枝状の谷津を形成している。

筑波・稲敷台地は，茨城県南部から千葉県北部に広がる常総台地の一部であり，下層は竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層であり，その上に板橋層または常総粘土層と呼ばれる白色粘土層，関東ローム層が順次堆積し，最上部は腐植土層となっている。

当遺跡は，つくば市の北部，蓮沼川右岸の標高24.5～25mの台地上に位置している。台地は，5～6mの比高をもって蓮沼川の流れる沖積地に臨んでいる。今回の調査区は平坦な地形であるが，北側から南側に向かって緩やかに傾斜しており，南側には西から東に流れる水路がある。

遺跡周辺の土地利用状況は，主として宅地・畑地・平地林となっており，蓮沼川流域の沖積低地は水田として利用されている。

第2節　歴史的環境

西平塚梨ノ木遺跡は，縄文時代から中・近世にかけての複合遺跡である。当遺跡の所在する葛城地区周辺では，西側の西谷田川，東谷田川，その支流である蓮沼川，東側の花室川，桜川などの流域に，数多くの遺跡が確認されている。ここでは，当遺跡と同時代の遺跡を中心に述べることにする。

縄文時代の遺跡は，各河川流域で多く確認されている。桜川，花室川流域には，栗原才十郎遺跡（中期）〈3〉，栗原大山西遺跡（早期）〈4〉，上境作ノ内遺跡（中期）〈5〉，柴崎遺跡（早期～前期，後期）〈1〉などが分布し，西谷田川，東谷田川流域には酒丸八ヶ代遺跡（中期）〈6〉，酒丸遺跡（中期）〈7〉，谷田部福田遺跡（中期）〈8〉，谷田部台成井遺跡（中期）〈9〉，島名境松遺跡（中期）〈10〉，小野川流域には，小野崎遺跡（早期・中期）〈11〉，境松貝塚（中期～後期）などが所在している。境松貝塚からは，貝類に混じって土器や石器も多く出土している。貝類は，オキシジミ，ヤマトシジミ，ムラサキガイ，シオフキ等で構成され，当時，周辺部への海水の侵入が想定されている。

弥生時代では，六十目遺跡〈13〉や中台遺跡などから後期後半の住居跡が検出されている。六十目遺跡の住居跡からは，十王台式土器や上稲吉式土器に比定される壺とともに，南関東系の特徴をもつ壺が出土し，当時の人々は，他地域との交流を深めながら生活していたと考えられる。

4世紀以降，つくば地域にも大和政権の勢力が及び，桜川をはじめ各河川流域の台地上に古墳の築造が開始される。桜川右岸には，玉取千年堂古墳〈14〉，円筒埴輪や人物埴輪，動物埴輪が出土した上境滝の台古墳群〈15〉が位置し，左岸には大刀や美豆良を結った頭髪が出土した武者塚古墳等が所在している。当遺跡西側を

流れる東谷田川右岸にも，面野井古墳群〈16〉，関ノ台古墳群〈17〉，島名榎内古墳群〈18〉等の古墳群が所在し，これらの古墳は大半が円墳である。

この時期の集落も多く，当遺跡南側には苅間遺跡〈19〉，水掘遺跡〈20〉，柳橋遺跡〈21〉が位置し，東谷田川右岸には，高田遺跡〈22〉，島名熊の山遺跡〈23〉等が所在している。

熊の山遺跡は発掘調査がなされ，古墳時代から平安時代に形成された大集落であることが確認されている。奈良・平安時代になると当遺跡付近は，律令制度の確立に伴って河内郡菅田郷に属するようになる。当遺跡の東側に位置する東岡中原遺跡〈24〉や柴崎遺跡は，発掘調査によりこの時期の大規模な集落であることが確認されている。九重東岡廃寺〈25〉は部分的な発掘調査がなされ，掘立柱建物跡等の建物跡と軒丸瓦，軒平瓦等の瓦類が検出されている。西坪遺跡は九重東岡廃寺に隣接し，東側の低地には条里遺構が存在すること等から，旧河内郡の郡衙跡と想定されている。また，桜川をさかのぼると筑波郡衙跡である平沢官衙遺跡が位置し，筑波山塊東部から桜川左岸に位置する小高，東城寺，小野地区には須恵器の窯跡が所在している。これらの遺跡や出土遺物は，社会構造を考える上で重要な手がかりとなっており，当地域は地方政治・文化の中心地であったと考えられる。

鎌倉幕府成立後，筑波山の南部地域は小田氏の勢力下におかれ，方穂故城〈27〉，金田城跡〈28〉，花室城跡〈29〉，小野崎館跡〈30〉，苅間城跡〈31〉等，小田氏関係の城館跡が数多く所在している。また，三村山麓一帯には中世寺院群があり，修行の場，布教活動の中心地となっていた。また，当遺跡付近には，現在の土浦市永国から小田氏が移転したと記録に残る大聖寺があったといわれていた。

戦国期になると，小田氏は次第に衰退し，天正二年（1574年）佐竹氏によって小田城が攻略されると，小田氏関係の城館はほとんどが廃城になったと考えられる。その後，一時期当地方は佐竹氏の支配下に置かれるが，秋田移封後には土浦藩に属することになり，その後明治を迎えて現在に至っている。

参考文献

・大山年次，蜂須紀夫　『茨城県　地学のガイド』　コロナ社　1977年
・蜂須紀夫，大森昌衛　『茨城の地質をめぐって』　築地書館　1979年
・谷田部の歴史編さん委員会　『谷田部の歴史』　谷田部町教育委員会　1975年９月
・桜村史編さん委員会　『桜村史　上巻』　桜村教育委員会　1982年３月
・大穂町史編纂委員会　『大穂町史』　つくば市大穂地区教育事務所　1989年３月
・豊里町史編さん委員会　『豊里の歴史』　豊里町　1985年３月
・茨城県史編さん中世史部会　『茨城県史料　中世編Ⅰ』　茨城県　1970年
・中山信名　『新編常陸国誌』　崙書房　復刻版　1964年
・茨城県教育財団　「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　境松遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第41集　1987年３月
・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ)　柴崎遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第93集　1994年９月
・茨城県教育財団　「(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書　中台遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第102集　1995年12月
・茨城県教育財団　「(仮称)葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　神田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第134集　1997年３月

第１図　周辺遺跡分布図（国土地理院５万分の１「土浦」）

第1表　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中・近世	番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中・近世
◎	西平塚梨ノ木遺跡		○			○	○	18	島名榎内古墳群				○		
1	柴崎遺跡	○	○		○	○	○	19	苅間遺跡				○		
2	苅間古墳				○			20	水堀遺跡				○		
3	栗原才十郎遺跡		○					21	柳橋遺跡				○		
4	栗原大山西遺跡		○		○			22	高田遺跡				○		
5	上境作ノ内遺跡		○		○			23	島名熊の山遺跡				○	○	○
6	酒丸八ヶ代遺跡		○		○			24	東岡中原遺跡	○	○		○	○	○
7	酒丸遺跡		○					25	九重東岡廃寺					○	
8	谷田部福田遺跡		○					26	金田西坪A遺跡					○	
9	谷田部台成井遺跡		○					27	方穂故城						○
10	島名境松遺跡		○		○			28	金田城跡						○
11	小野崎遺跡		○		○			29	花室城跡						○
12	島名薬師遺跡				○			30	小野崎館跡						○
13	六十目遺跡			○	○	○	○	31	苅間城跡						○
14	玉取千年堂古墳				○			32	上野天神塚古墳				○		
15	上境滝の台古墳群				○			33	上ノ室城跡						○
16	面野井古墳群				○			34	倉掛遺跡				○		
17	関ノ台古墳群				○			35	高野古墳群				○		

・茨城県教育財団　「(仮称)島名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第149集　1999年3月

・茨城県教育財団　「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ　中原遺跡3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集　2001年3月

・土浦市史編さん委員会　『土浦市史』　1975年

・千葉義重　『葛城村史』　1990年3月

第3章　調　査　の　成　果

第1節　遺 跡 の 概 要

当遺跡は，今回の調査によって，縄文時代前・中期，平安時代前期及び中・近世にかけての複合遺跡であることが判明した。遺構としては，平安時代前期の竪穴住居跡１軒，中世の地下式壙１基，井戸跡３基，溝跡５条，土坑墓２基，時期不明の溝跡16条，土坑224基が検出された。

遺物は，遺物収納箱（60×40×20cm）に28箱出土している。遺物の大部分は平安時代の土師器（甕）と須恵器（坏・蓋・盤・高坏・鉢），中・近世の石造物（五輪塔・宝篋印塔）である。その他の遺物は，縄文土器片，石鏃，磨製石斧，凹石，土師質土器（小皿），陶磁器片，板碑，砥石，古銭，椀形滓等が出土している。

第2節　基　本　層　序

調査区北部のＢ４g2区にテストピットを設定し，約1.5m掘り下げて基本土層の観察を行い，第２図に示すような土層堆積状況を確認した。

１層は，暗褐色の表土層で，ローム中ブロック・ローム粒子を中量，ローム大ブロック・ローム小ブロックを少量含んでいる。粘性は弱く，締まりもあまりない。層厚は10cm ほどである。

２層は，褐色の腐食土層で，表土とローム層の間層と考えられる。ローム小ブロック・ローム粒子を中量，ローム中ブロックを少量含んでいる。粘性と締まりはともに普通で，層厚は15～20cm である。

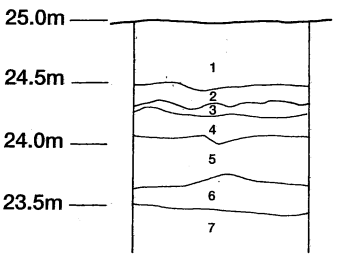
３層は，褐色のソフトローム層で，炭化粒子を少量含んでいる。粘性と締まりはともに普通で，層厚は10cm 以下である。

４層は，にぶい褐色をしているハードローム層で，炭化粒子を少量，白色粒子と赤色粒子を極少量含んで締まっている。層厚は20cm ほどである。

５層は，黒褐色のハードローム層で，黒色粒子を少量，赤色粒子・白色粒子を極少量含んでかたく締まっている。ハードローム層と思われる地層の下部に堆積した暗褐色土層であることから，第二黒色帯（ＢＢⅡ）と考えられる。層厚は30～40cm である。

６層は，明褐色のハードローム層で，赤色粒子・白色粒子を極少量含んでかたく締まっている。層厚は15～30cm である。以上が立川ローム，以下が武蔵野ロームに対比されるものと考えられる。

７層は，にぶい褐色をしたローム層で，炭化粒子を少量含んでいて粘性は強い。



第２図　基本土層図

第3節　遺構と遺物

1　奈良時代の遺構と遺物

今回の調査で，奈良時代の竪穴住居跡１軒を確認した。以下，確認した遺構と出土遺物について記載する。

(1)　竪穴住居跡

第１号住居跡（第３図）

位置　調査区の西部，Ｃ７i6区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係　第13号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.40m，短軸3.30mの隅丸方形で，主軸はＮ－88°－Ｅを指している。壁の南側は撹乱により削平されているが，残存高は26～32cm で，各壁ともほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，若干軟弱である。壁溝は，竈北側の北壁下から北西コーナー部壁下を経て南壁下の中央部まで巡っている。断面はＵ字形で，上幅12～30cm，下幅４～11cm，深さ７cm である。

竈　東壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで107cm，両袖部幅89cm である。袖部は確認できないが，北袖部と考えられる部分は地山を削りだして基部がつくられている。天井部は崩落しており，土層断面図中，第２・３層が粘土粒子や焼土ブロックを含むことから，崩落土と考えられる。煙道部は壁外へ約72cm 掘り込み，20度の傾きで立ち上がる。火床部は長軸73cm，短軸58cm の楕円形で，深さ84cm ほど掘り込み，焼土ブロックやロームブロックを含んだ灰褐色土を埋めてつくっている。火床面は，東壁ライン上に位置し，煙道部の立ち上がり付近には，支脚として転用されたと思われる火熱を受けた須恵器高坏が，正位で据えられている。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
3	暗赤褐色	ローム粒子・焼土中ブロック少量
4	褐色	ローム粒子中量，焼土中ブロック微量
5	暗褐色	ローム粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化物微量
6	灰褐色	ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
7	にぶい赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
8	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量
9	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量

覆土　13層からなる。ロームブロックや焼土ブロックを多く含むことから，人為堆積と考えられる。

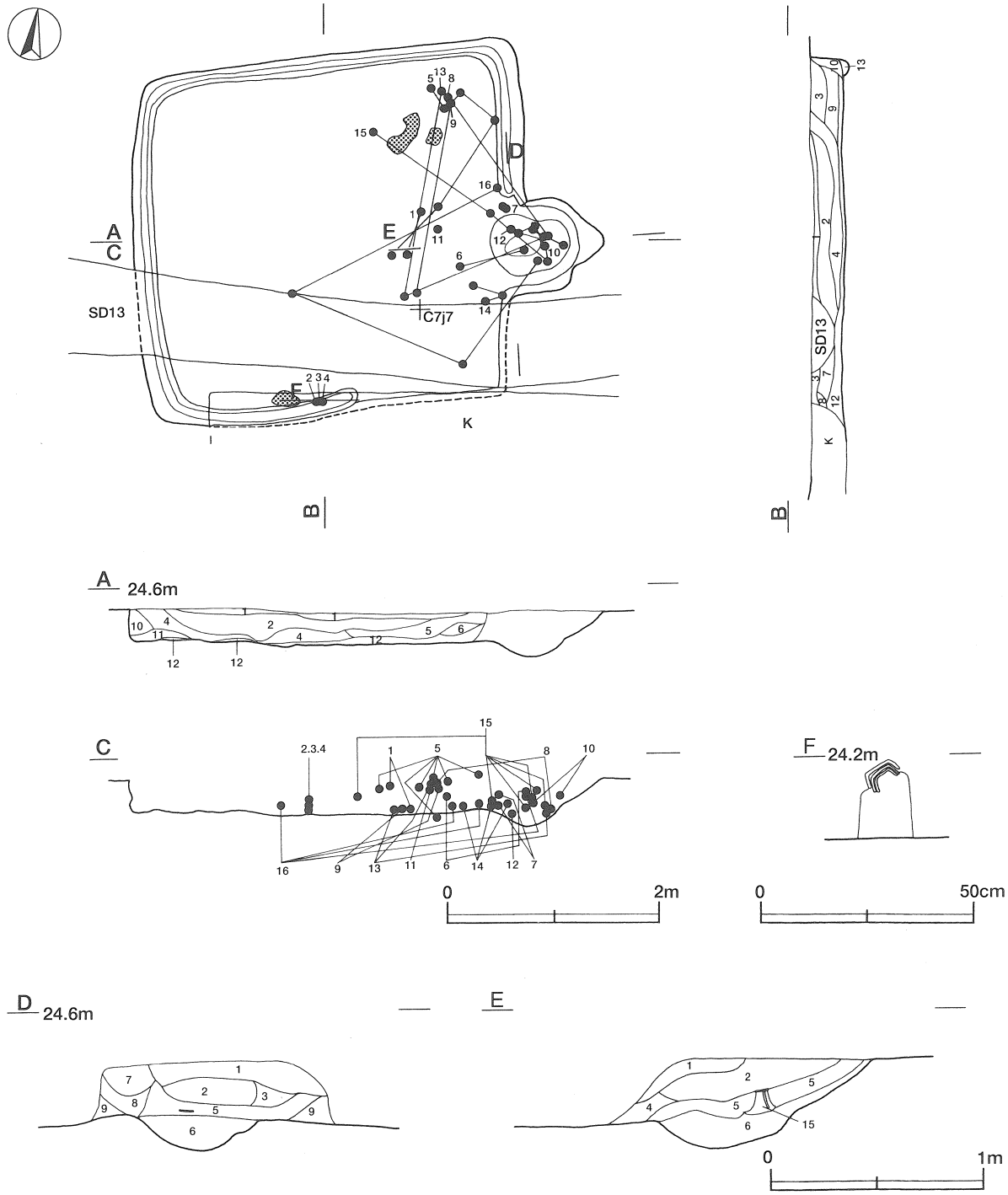
土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム大ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微量
3	暗褐色	ローム小ブロック少量
4	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微量
5	黒褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
6	暗褐色	ローム大ブロック・焼土小ブロック少量
7	暗褐色	ローム小ブロック・炭化物微量，焼土粒子微量
8	黒褐色	ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
9	極暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
10	灰褐色	ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量
11	黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子少量
12	褐色	ローム中ブロック・焼土中ブロック少量，炭化粒子微量
13	暗褐色	ローム小ブロック少量

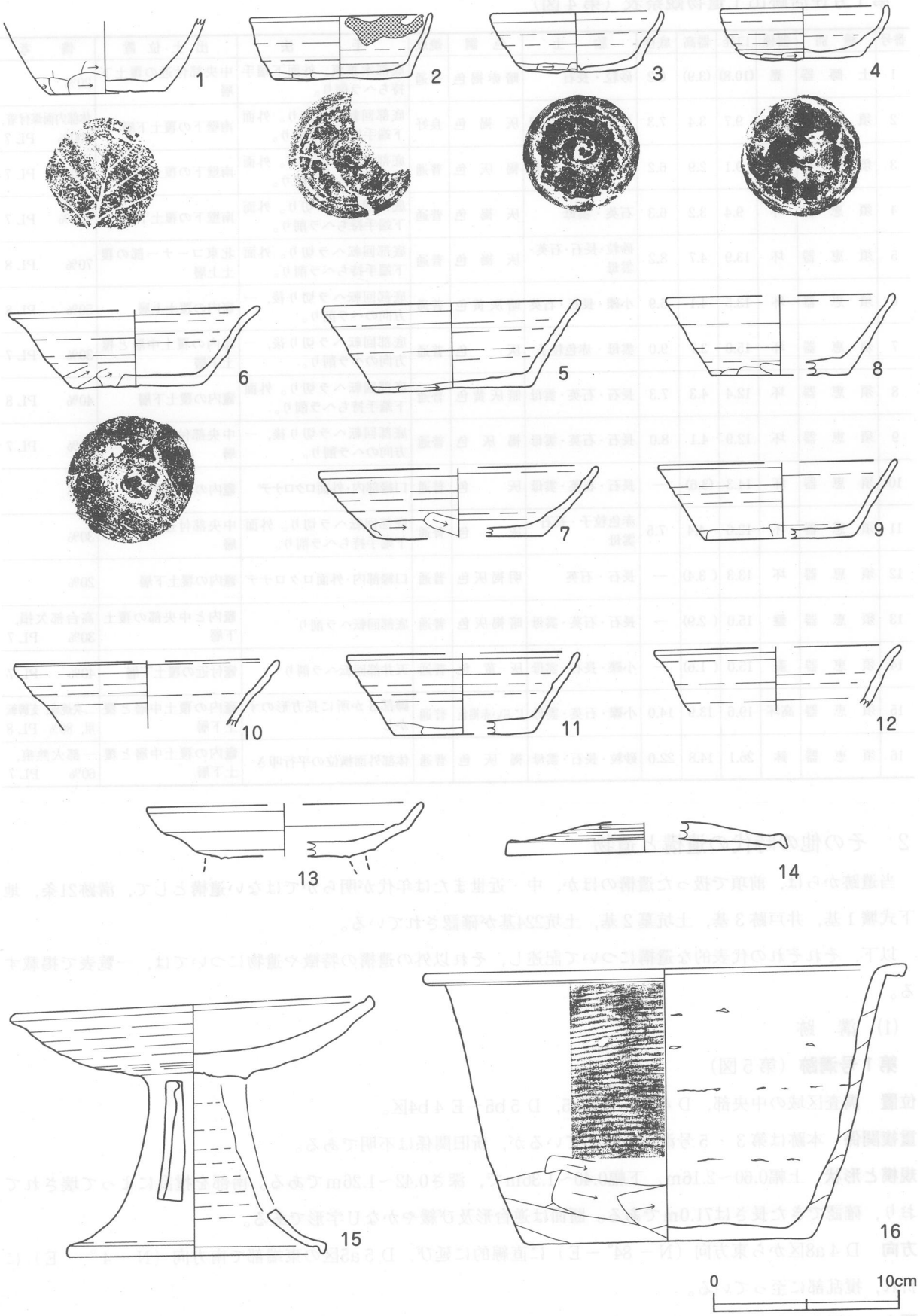
遺物　土師器片15点，須恵器片111点が出土している。遺物は，層位的には覆土中・下層から検出され，平面的には本跡竈内・中央部・北東部から多く出土している。第４図2，3，4の須恵器坏は，南壁際の覆土下層から重なった逆位で出土している。7，10，12の須恵器坏は，竈内から出土している。11の須恵器坏は，中央部付近の覆土中層，14の須恵器蓋は竈付近の覆土下層からそれぞれ出土している。１の土師器甕，8の須恵器坏，13の須恵器盤は，覆土上層と覆土下層から出土した破片が接合したものであり，9の須恵器坏，15の須恵器高坏，

16の須恵器鉢は，覆土中層と覆土下層から出土した破片が接合したものである。15の須恵器高坏の脚部は，竈内の煙道部付近に正位で出土し，火熱を受けていることから，支脚として使用されたと考えられる。

所見　本跡の遺物は，覆土上層や覆土中層から出土したものと覆土下層から出土したものが接合関係にあることから，短期間で埋められたことが想定される。本跡の時期は，重複関係と出土土器から，8世紀後葉と推定される。



第3図　第1号住居跡実測図



第４図　第１号住居跡出土遺物実測図

第１号住居跡出土遺物観察表（第４図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法	出土位置	備　考
1	土師器	甕	(10.8)	(3.9)	6.2	砂粒・長石	暗赤褐色	普通	底部木葉痕。外面下端手持ちヘラ削り。	中央部付近の覆土下層	20%
2	須恵器	坏	9.7	3.4	7.3	長石・石英・雲母	灰褐色	良好	底部回転ヘラ切り。外面下端手持ちヘラ削り。	南壁下の覆土下層	体部内面煤付着，100%　PL 7
3	須恵器	坏	9.1	2.9	6.2	長石・石英・雲母	褐灰色	普通	底部回転ヘラ切り。外面下端手持ちヘラ削り。	南壁下の覆土下層	100%　PL 7
4	須恵器	坏	9.4	3.2	6.3	石英・雲母	灰褐色	普通	底部回転ヘラ切り。外面下端手持ちヘラ削り。	南壁下の覆土下層	100%　PL 7
5	須恵器	坏	13.9	4.7	8.2	砂粒・長石・石英・雲母	灰褐色	普通	底部回転ヘラ切り。外面下端手持ちヘラ削り。	北東コーナー部の覆土上層	70%　PL 8
6	須恵器	坏	13.5	4.1	6.9	小礫・長石・石英	暗灰黄色	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り。	竈内の覆土上層	50%　PL 8
7	須恵器	坏	15.0	3.7	9.0	雲母・赤色粒子	灰色	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り。	竈内の覆土中層と覆土下層	30%　PL 7
8	須恵器	坏	12.4	4.3	7.3	長石・石英・雲母	暗灰黄色	普通	底部回転ヘラ切り。外面下端手持ちヘラ削り。	竈内の覆土下層	40%　PL 8
9	須恵器	坏	12.9	4.1	8.0	長石・石英・雲母	褐灰色	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り。	中央部付近の覆土下層	30%　PL 7
10	須恵器	坏	14.3	(3.6)	—	長石・石英・雲母	灰色	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	竈内の覆土中層	20%
11	須恵器	坏	12.6	4.4	7.5	赤色粒子・長石・雲母	灰色	普通	底部回転ヘラ切り。外面下端手持ちヘラ削り。	中央部付近の覆土中層	30%
12	須恵器	坏	13.3	(3.4)	—	長石・石英	明褐灰色	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	竈内の覆土下層	20%
13	須恵器	盤	15.0	(2.9)	—	長石・石英・雲母	暗褐灰色	普通	底部回転ヘラ削り	竈内と中央部の覆土下層	高台部欠損，30%　PL 7
14	須恵器	蓋	15.0	(1.6)	—	小礫・長石・雲母	灰黄色	普通	天井部回転ヘラ削り	竈付近の覆土下層	40%　PL 7
15	須恵器	高坏	19.6	13.9	14.0	小礫・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	脚部３か所に長方形のすかし	竈内の覆土中層と覆土下層	二次焼成，支脚転用，80%　PL 8
16	須恵器	鉢	26.1	14.8	22.0	砂粒・長石・雲母	褐灰色	普通	体部外面横位の平行叩き	竈内の覆土中層と覆土下層	一部火熱痕，60%　PL 7

2　その他の時代の遺構と遺物

当遺跡からは，前項で扱った遺構のほか，中・近世または年代が明らかではない遺構として，溝跡21条，地下式壙１基，井戸跡３基，土坑墓２基，土坑224基が確認されている。

以下，それぞれの代表的な遺構について記述し，それ以外の遺構の特徴や遺物については，一覧表で掲載する。

(1)　溝　跡

第１号溝跡（第５図）

位置　調査区域の中央部，Ｄ４a8～Ｄ５a5，Ｄ５b5～Ｅ４b4区。

重複関係　本跡は第３・５号溝と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　上幅0.60～2.16m，下幅0.40～1.36mで，深さ0.42～1.26mである。南部を撹乱によって壊されており，確認できた長さは71.0mである。断面は逆台形及び緩やかなＵ字形である。

方向　Ｄ４a8区から東方向（Ｎ－84°－Ｅ）に直線的に延び，Ｄ５a5区の東端部で南方向（Ｎ－４°－Ｅ）に折れ，撹乱部に至っている。

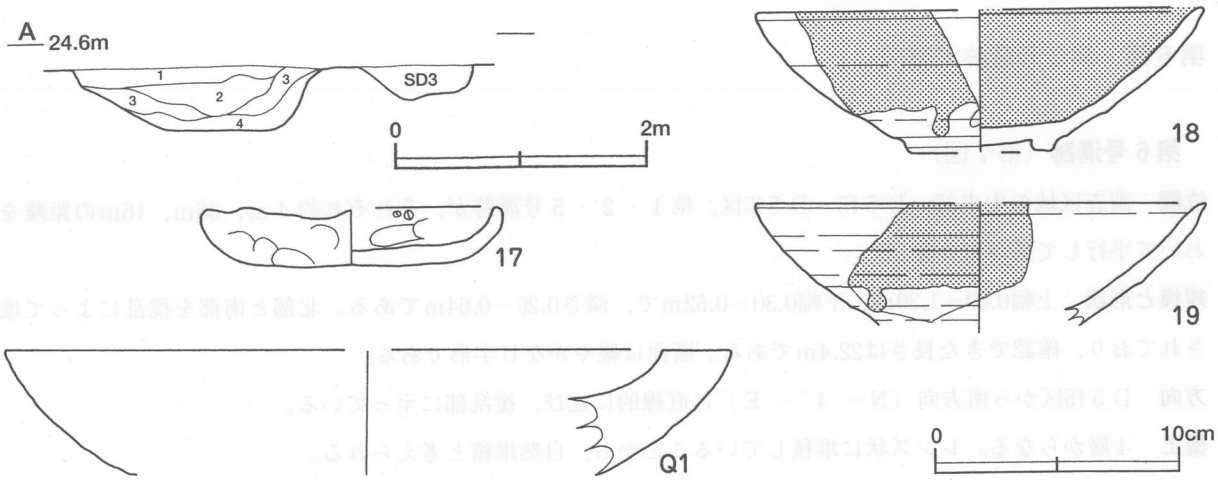
覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物　土師質土器片３点，瀬戸・美濃系陶器片34点，茶臼片１点が出土している。第５図17の土師質土器は覆土上層，18・19の古瀬戸平碗は覆土下層，Ｑ１の茶臼は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　東西方向から南北方向に規則的に曲折しているが，性格は不明である。出土陶器の生産年代が14世紀中葉から後葉に位置付けられていることから，本跡の時期は，14世紀中葉以降と考えられる。



第５図　第１号溝跡・出土遺物実測図

第１号溝跡出土遺物観察表（第５図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法	出土位置	備　考
17	土師質土器	小皿	12.0	2.4	9.0	砂粒・雲母	暗灰褐色	不良	口縁部，体部内・外面指頭押圧痕。	覆土上層	40%
18	陶　器	平碗	18.0	5.7	6.0	砂粒・石英	灰白色 淡黄色	良好	体部内・外面ロクロナデ。内・外面灰釉施釉。	覆土下層	古瀬戸後期，30%
19	陶　器	平碗	18.0	4.8	—	砂粒・石英	灰白色 淡黄色	良好	体部内・外面ロクロナデ。内・外面灰釉施釉。	覆土下層	古瀬戸後期，20%

番号	器　種	計測値				材　質	特　徴	出土位置	備　考
		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)				
Ｑ１	茶　臼	29.0	5.0	—	280.0	安山岩		覆土下層	5%

第２号溝跡（第６図）

位置　調査区域の東部，Ｃ６i5～Ｄ６f5，Ｄ６h4～Ｄ６j4区。

重複関係　本跡は第13号溝に掘り込まれている。

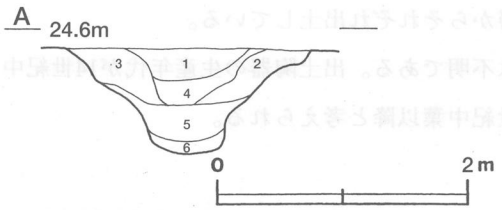
規模と形状　上幅1.30～2.12m，下幅0.32～0.69mで，深さ0.68～1.70mである。南部を撹乱によって壊されており，確認できた長さは41.2mである。断面は逆台形及び緩やかなＵ字形である。

方向　Ｃ６i5区から南方向（Ｎ－８°－Ｅ）に直線的に延び，撹乱部に至っている。

覆土　６層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
2 黒　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3 黒　　色　ローム中ブロック少量
4 暗　褐　色　ローム小ブロック中量
5 黒　　色　ローム小ブロック少量
6 暗　　色　ローム中ブロック少量



遺物　遺物は出土していない。

所見　時期は，遺物が出土していないため不明である。

第6図　第2号溝跡実測図

第6号溝跡（第7図）

位置　調査区域の中央部，D5f5～D5j5区。第1・2・5号溝跡が，それぞれ約4m，36m，16mの距離をおいて平行して延びている。

規模と形状　上幅0.69～1.30m，下幅0.30～0.52mで，深さ0.20～0.64mである。北部と南部を撹乱によって壊されており，確認できた長さは22.4mである。断面は緩やかなU字形である。

方向　D5f5区から南方向（N－4°－E）に直線的に延び，撹乱部に至っている。

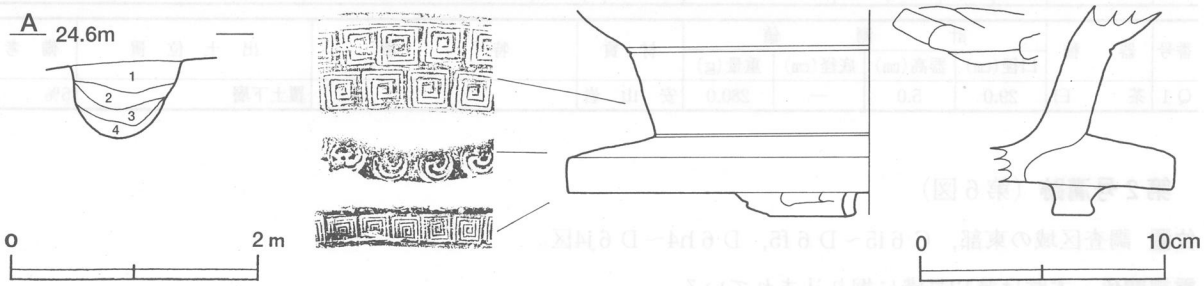
覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
2 暗　褐　色　ローム粒子中量
3 黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4 褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物　土師質土器片1点，陶器片3点が出土している。第7図20の土師質の台座形土製品は覆土中層から出土している。

所見　本跡は，第1・2・5号溝跡と平行して南北方向に巡っているが，性格は不明である。出土陶器の時期が中世に位置付けられていることから，時期は中世と考えられる。



第7図　第6号溝跡・出土遺物実測図

第6号溝跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種　別	器　種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法	出土位置	備　考
20	土師質土器	香炉	—	(8.6)	25.0	長石・石英・雲母	灰　白　色	普通	内・外面ヘラナデ。雷文・巴文の押圧痕。	覆土中層	5% PL7

第13号溝跡（第８図）

位置　調査区域の中央部から東部，Ｃ５i5～Ｃ７i5区。

重複関係　本跡は第12号溝に掘り込まれ，第１号住居跡，第２・14号溝跡を掘り込んでいる。

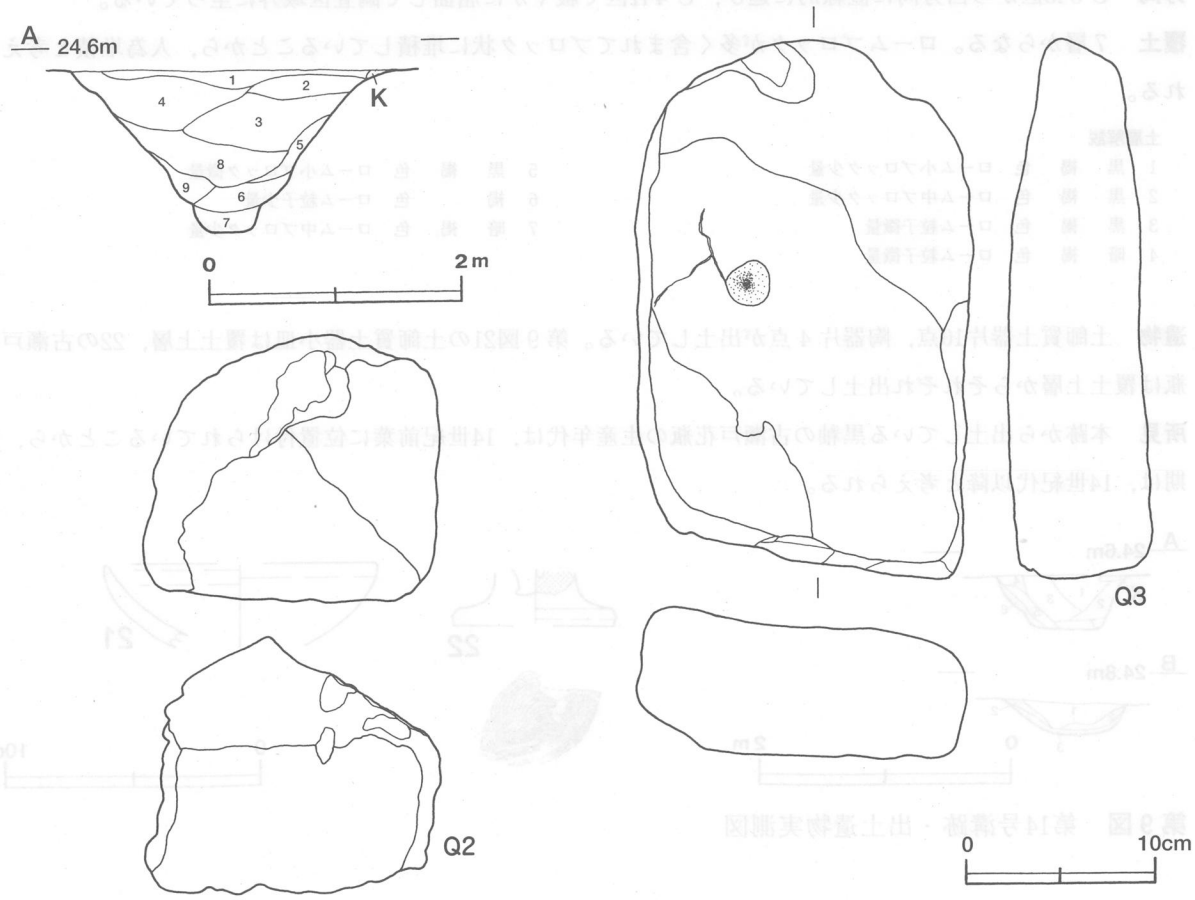
規模と形状　上幅1.08～2.26m，下幅0.18～0.98mで，深さ1.30mである。確認できた長さは85.98mである。断面は逆台形である。

方向　Ｃ５i5区から東方向（Ｎ－90°－Ｅ）に直線的に延びている。

覆土　９層からなる。ロームブロックが多く含まれてブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒	褐	色	ローム中ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2	暗	褐	色	ローム小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
3	黒	褐	色	ローム中ブロック中量，炭化粒子微量
4	暗	褐	色	ローム中ブロック少量
5	暗	褐	色	ローム小ブロック中量
6	黒	褐	色	ローム小ブロック少量，炭化物微量
7	黒	褐	色	ローム中ブロック少量
8	黒	褐	色	ローム小ブロック中量
9	暗	褐	色	ローム中ブロック中量



第８図　第13号溝跡・出土遺物実測図

遺物　陶器片２点，石造物（五輪塔）片９点，砥石２点が出土している。第８図Ｑ２の五輪塔火輪は覆土上層，Ｑ３の砥石は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　掘り込みが深く，東西方向に直線的に延びているが，性格は不明である。出土している五輪塔の生産年代が15世紀後半から16世紀前半に位置付けられていることから，時期は15世紀後半から16世紀前半以降と考えられる。

第13号溝跡出土遺物観察表（第８図）

番号	種別	部位	計測値（cm）								材質	特徴	出土位置	備考
			全高	斜部高	軒厚	軒反厚	上面幅	軒幅	ホゾ深	ホゾ径				
Q２	五輪塔	火輪	13.5	5.7	7.8	(6.6)	—	(15.5)	—	—	花崗岩		覆土上層	30%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q３	不明石製品	28.6	17.6	7.3	6600.0	砂岩	台石カ	覆土中層	火熱痕

第14号溝跡（第９図）

位置　調査区域の中央部から西部，Ｄ２d5～Ｃ５i4区。

重複関係　本跡は第13号溝に掘り込まれている。第16・18号溝跡とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　上幅0.72～1.46m，下幅0.24～0.92mで，深さ0.16～0.47mである。西部が調査区域外に延びており，確認できた長さは128.95mである。断面は，逆台形及び緩やかなＵ字状である。

方向　Ｃ５i5区から西方向に直線的に延び，Ｃ４i1区で緩やかに屈曲して調査区域外に至っている。

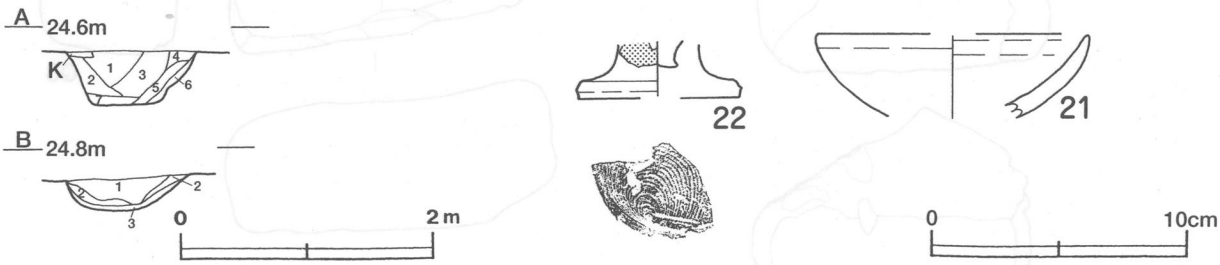
覆土　７層からなる。ロームブロックが多く含まれてブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ローム小ブロック微量
6　褐　　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ローム中ブロック少量

遺物　土師質土器片10点，陶器片４点が出土している。第９図21の土師質土器小皿は覆土上層，22の古瀬戸花瓶は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　本跡から出土している黒釉の古瀬戸花瓶の生産年代は，14世紀前葉に位置付けられていることから，時期は，14世紀代以降と考えられる。



第９図　第14号溝跡・出土遺物実測図

第14号溝跡出土遺物観察表（第９図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
21	土師質土器	小皿	11.0	3.3	—	砂粒・雲母	にぶい橙色	普通	内・外面ナデ	覆土上層	器面荒れ，30%
22	陶器	花瓶	—	2.4	6.5	砂粒	灰色 褐色	普通	底部回転糸切り痕。 脚部鉄釉施釉。	覆土上層	古瀬戸後期，20%

第15号溝跡（第10図）

位置　調査区域の中央部から西部，Ｄ２b8～Ｃ４j1区。

重複関係　本跡は第188号土坑に掘り込まれている。第20号溝跡とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　上幅1.38～2.22m，下幅0.40～1.18mで，深さ0.25～0.53mである。確認できた長さは16.82mである。断面は，皿状及び緩やかなＵ字状である。

方向　Ｃ４j1区から西方向に直線的に延び，Ｃ３i8区で緩やかに屈曲して撹乱部に至っている。

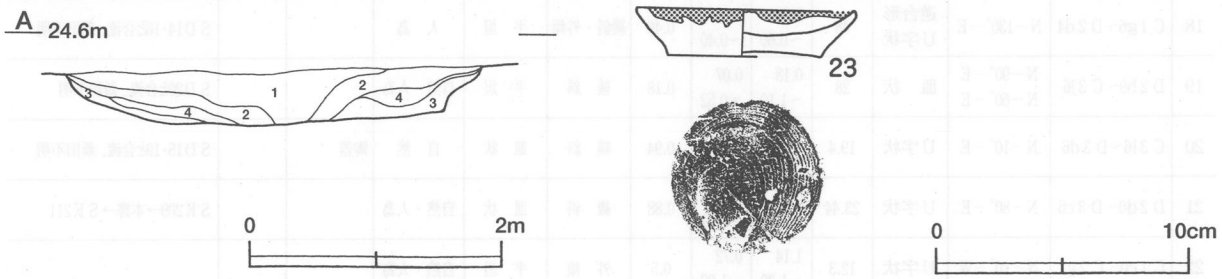
覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物　土師質土器片９点，陶器片６点，鉄滓１点が出土している。第10図23の土師質土器小皿は覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物の年代から15世紀代と考えられる。



第10図　第15号溝跡・出土遺物実測図

第15号溝跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法	出土位置	備　考
23	土師質土器	小皿	8.8	1.9	6.2	雲母・長石	にぶい橙色	普通	底部回転糸切り痕	覆土上層	口縁部油煙付着，80% PL７

第２表　溝跡一覧表

番号	位　置	方　向	断面形	規模（m）				壁　面	底　面	覆　土	出土遺物	時代	備　考
				長さ	上幅	下幅	深さ						
1	Ｄ４a8～Ｄ５a5，Ｄ５b3～Ｅ４b4	Ｎ－84°－Ｅ Ｎ－４°－Ｅ	逆台形 Ｕ字状	71.0	0.60～2.16	0.40～1.36	1.26	緩　斜	平坦・皿状	自　然	土師質土器，茶臼		ＳＤ３・５と合流，新旧不明
2	Ｃ６i5～Ｄ６f5，Ｄ６h4～Ｄ６j4	Ｎ－８°－Ｅ	逆台形 Ｕ字状	41.2	1.30～2.12	0.32～0.69	1.7	緩　斜	皿　状	自然・人為			本跡→ＳＤ13
3	Ｃ４j0，Ｃ５j1～Ｃ５j5	Ｎ－90°－Ｅ	皿　状 Ｕ字状	16.76	0.42～1.28	0.18～0.64	0.59	緩斜・外傾	平坦・皿状	人　為			ＳＤ１と合流，新旧不明
4	Ｄ６j8～Ｄ６j9	Ｎ－90°－Ｅ	Ｖ字状 Ｕ字状	3.65	0.6～1.20	0.17～0.50	0.3	緩斜・外傾	Ｖ字状	人　為			
5	Ｄ４a9～Ｂ４f9	Ｎ－２°－Ｅ	皿　状	21.9	0.82～1.34	0.34～1.06	0.4	緩　斜	皿　状	自　然			ＳＤ１と合流，新旧不明
6	Ｄ５f5～Ｄ５j5	Ｎ－４°－Ｅ	Ｕ字状	24.4	0.69～1.30	0.30～0.52	0.64	緩　斜	皿　状	自　然	土師質土器，陶器		

番号	位　置	方　向	断面形	規　模（m）				壁　面	底　面	覆　土	出土遺物	時代	備　　考
				長さ	上幅	下幅	深さ						
7	C 6j1～D 6c1 ～D 6c4	N－0°－E N－90°－E	逆台形 U字状	26.8	0.68 ～1.30	0.20 ～0.40	0.65	緩　斜	平坦・皿状	人　為			SD 8・9と合流，新旧不明，本跡→SK35
8	C 6j3～D 6c3	N－0°－E	逆台形	9.3	0.60 ～0.94	0.36 ～0.56	0.28	緩　斜	平　坦	人　為			S D 7と合流，新旧不明
9	C 6j1～C 6j3	N－90°－E	V字状 U字状	7.9	0.60 ～0.92	0.16 ～0.60	0.38	緩　斜	V字状	自然・人為			S D 7と合流，新旧不明
10	B 4f6～B 5f1 ～B 5f6	N－90°－E	皿　状 U字状	42.8	0.50 ～0.80	0.24 ～0.58	0.2	緩　斜	平坦	自然・人為			本跡→S D12・S K110
11	D 7g9～D 7i9	N－0°－E	皿　状	8.08	0.72 ～1.70	0.24 ～1.38	0.35	緩　斜	皿　状	自然・人為			
12	B 5e6～C 5i6	N－0°－E	U字状	52.38	0.66 ～1.02	0.34 ～0.72	0.35	緩斜・外傾	平　坦	人　為			S D10・13→本跡
13	C 5i5～C 7i5	N－90°－E	逆台形 U字状	85.98	1.08 ～2.26	0.18 ～0.98	1.3	緩　斜	平　坦	自然・人為	石造物， 陶器		S I 1・S D 2・14→本跡→S D 12
14	D 2d5～C 5i4	N－90°－E N－44°－E	逆台形 U字状	128.95	0.72 ～1.46	0.24 ～0.92	0.47	緩斜・外傾	平坦・皿状	人　為	土師質土器， 陶器		SD13・16・18と合流，新旧不明，本跡→SD13
15	D 2b8～C 4j1	N－60°－E	皿　状 U字状	16.82	1.38 ～2.22	0.40 ～1.18	0.53	緩　斜	皿　状	人　為	土師質土器， 陶器		SD20と合流，新旧不明，本跡→SK188
16	C 1g6～D 2d6	N－130°－E	U字状	52.54	1.16 ～2.08	0.38 ～0.88	0.46	緩　斜	皿　状	自然・人為			S D14・18と合流，新旧不明
18	C 1g6～D 2d4	N－130°－E	逆台形 U字状	48	0.30 ～0.60	0.06 ～0.40	0.46	緩斜・外傾	平　坦	人　為			S D14・16と合流，新旧不明
19	D 2b9～C 3j6	N－90°－E N－60°－E	皿　状	28	0.18 ～1.10	0.07 ～0.52	0.18	緩　斜	平　坦	自然・人為			S D20と合流，新旧不明
20	C 3i6～D 3d6	N－10°－E	U字状	19.4	1.76 ～2.01	0.42 ～0.64	0.94	緩　斜	皿　状	自　然	陶器		S D15・19と合流，新旧不明
21	D 2d0～D 3c6	N－80°－E	U字状	23.44	0.67 ～1.36	0.04 ～0.62	0.88	緩　斜	皿　状	自然・人為			S K209→本跡→S K211
22	C 1e0～C 2g1	N－10°－W	U字状	12.3	1.14 ～1.30	0.72 ～1.02	0.5	外　傾	平　坦	自然・人為			

(2)　地下式壙

第１号地下式壙（第11図）

位置　調査区域の中央部，Ｃ４i0区。

竪坑　主室は天井部が崩落している。規模は，確認面で長軸0.91m，短軸0.76m，底面で長軸0.85m，短軸0.54m，平面形は長軸が主軸と一致する長方形である。確認面からの深さは60cm で，主室底面から13cm 高い。底面はほぼ平坦であるが，主室底面側だけはスロープ状に緩やかに傾斜する。

主室　天井部が崩落しており，天井部の形状は不明である。規模は，確認面で長軸2.31m，短軸1.65m，底面で長軸2.04m，短軸1.43m，平面形は主軸が長軸と直交する長方形である。底面は平坦で，確認面からの深さは79cm である。

壁　竪坑・主室ともに外傾して立ち上がる。

主軸方向　Ｎ－０°－Ｅ

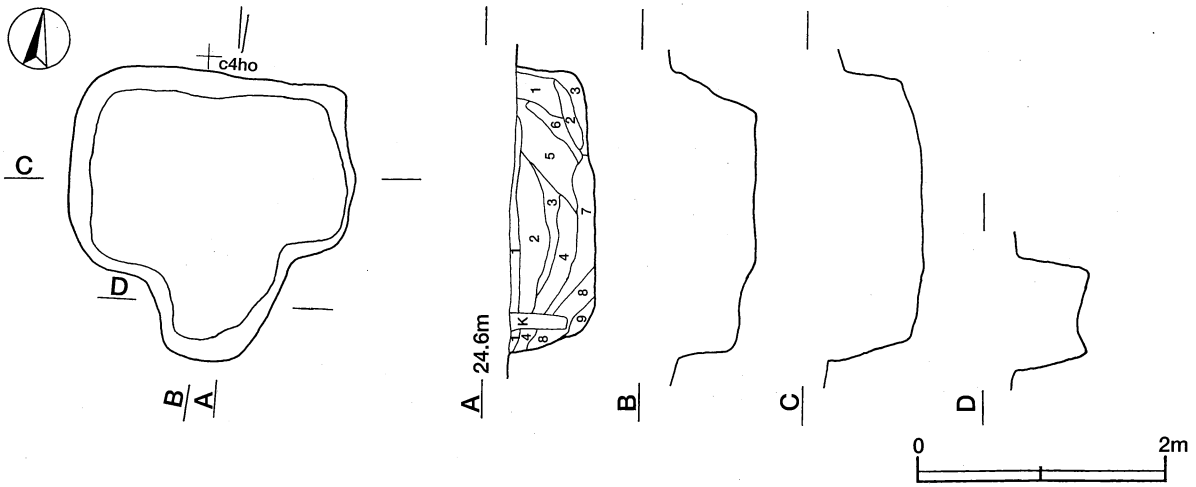
覆土　９層からなる。３層は，ロームブロック・粘土粒子を多く含んでいることから，天井部・壁の崩落土層と考えられる。これより下位の土層は，ロームブロック・ローム粒子を多く含むことから天井部の崩落土層の可能性がある。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック少量，焼土小ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
4　黒　　色　ローム小ブロック少量
5　黒　褐　色　ローム小ブロック中量
6　黒　褐　色　ローム小ブロック微量

7　黒　褐　色　ローム粒子中量
8　暗　褐　色　ローム中ブロック中量
9　暗　褐　色　ローム粒子多量

所見　本跡の時期は，遺物が出土していないため明らかではないが，形状から中世以降と推定される。



第11図　第１号地下式壙実測図

(3)　井戸跡

第１号井戸跡（第12図）

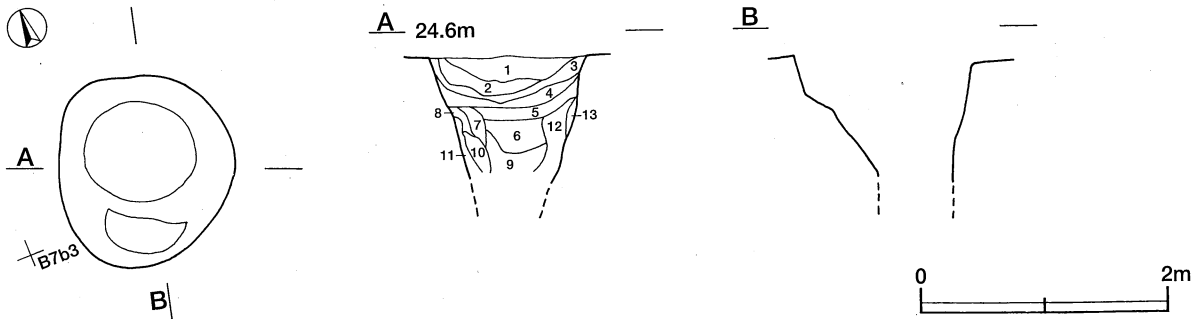
位置　調査区域の北東部，Ｂ７a3区。

規模と形状　平面形は楕円形である。確認面から0.95mの深さまで急傾斜を呈し，そこから下位は円筒形である。規模は，上面径1.38～1.60m，底面径0.81～0.93mで，深さ約１mまで掘り込んだところで湧水が著しくなり，それ以下の調査を打ち切った。

覆土　13層からなり，1～４層はレンズ状の堆積から自然堆積，5～13層はブロック状の堆積から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム小ブロック中量
2　黒　褐　色　ローム大ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム大ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
5　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
6　黒　　色　ローム中ブロック中量，炭化物微量
7　黒　褐　色　ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量
9　暗　褐　色　ローム中ブロック中量
10　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
11　褐　　色　ローム粒子中量
12　暗　褐　色　ローム小ブロック中量
13　褐　　色　ローム粒子多量

所見　本跡の時期は，遺物が出土していないため明らかではないが，形状から中世以降と推定される。



第12図　第１号井戸跡実測図

第２号井戸跡（第13図）

位置　調査区域の北部，Ｂ４i5区。

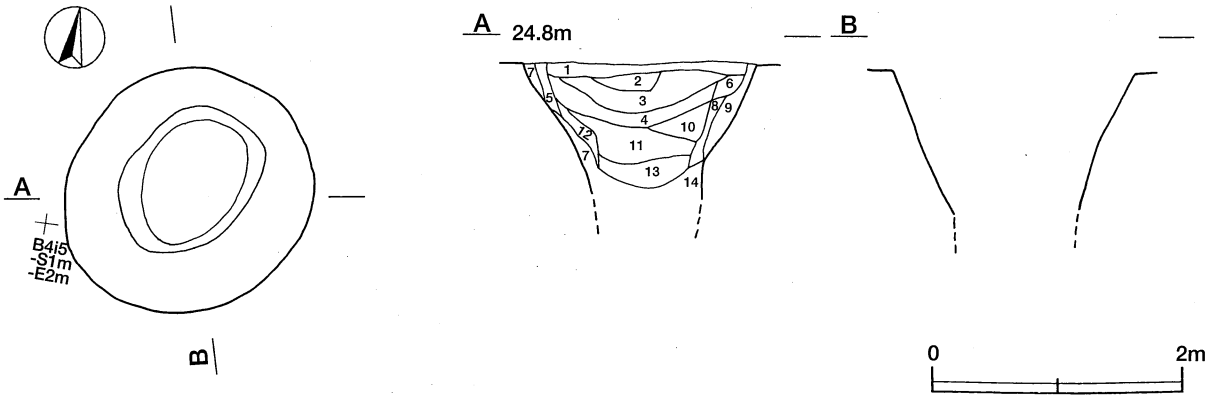
規模と形状　平面形は楕円形である。確認面から1.16mの深さまで急傾斜を呈し，そこから下位は円筒形である。規模は，上面径1.88～2.08m，底面径0.78～1.06mで，深さ約1.2mまで掘り込んだところで湧水が著しくなり，それ以下の調査を打ち切った。

覆土　14層からなり，ブロック状の堆積から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒	色	ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
2	黒 褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
3	黒 褐	色	ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
4	黒 褐	色	ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
5	極暗褐	色	ローム粒子中量
6	黒 褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
7	極暗褐	色	ローム粒子多量
8	極暗褐	色	ローム粒子多量
9	暗 褐	色	ローム粒子多量
10	黒 褐	色	ローム小ブロック少量
11	黒	色	ローム小ブロック少量
12	黒	色	ローム粒子少量
13	黒	色	ローム小ブロック少量
14	黒 褐	色	ローム大ブロック少量

所見　本跡の時期は，遺物が出土していないため明らかではないが，形状から中世以降と推定される。



第13図　第２号井戸跡実測図

第３号井戸跡（第14図）

位置　調査区域の中央部，Ｃ２h6区。

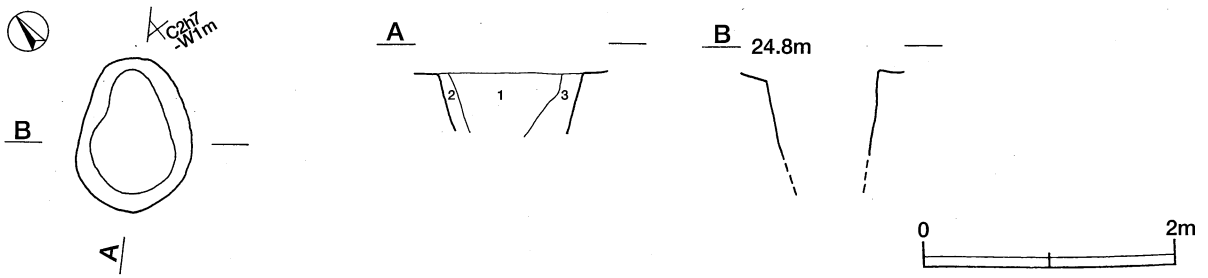
規模と形状　平面形は不整楕円形である。確認面から約0.7mの深さまで急傾斜を呈し，そこから下位は湧水が著しくなり，それ以下の調査を打ち切った。上面径の規模は，0.89～1.23mである。

覆土　３層からなり，ロームブロックを多く含む黒色土が堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒	色	ローム小ブロック中量
2	黒	色	ローム粒子中量
3	黒	色	ローム粒子中量

所見　本跡の時期は，遺物が出土していないため明らかではないが，形状から中世以降と推定される。



第14図　第３号井戸跡実測図

第３表　井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	形態	規模			壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 新旧関係(古→新) その他
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)	平面形						
1	B 7 a3	N－34°－E	円筒形	1.60×1.38	1.01以上	楕円形	緩斜・外傾	—	自然・人為		中世以降	
2	B 4 i5	N－35°－E	円筒形	2.08×1.88	1.14以上	楕円形	緩斜	—	人為		中世以降	
3	C 2 h6	N－37°－E	円筒形	1.23×0.89	0.65以上	不整楕円形	外傾	—	人為		中世以降	

(4)　土　坑

第21号土坑（第15図）

位置　調査区域の中央部東寄り，Ｄ５e8区。

規模と形状　長径1.18m，短径0.90mの不整楕円形で，深さは44cm である。壁は外傾して立ち上がる。２か所のピットが検出された。西壁際のものは長径32cm，短径27cm の楕円形で，確認面からの深さ40cm，西側の底部のものは長径25cm，短径21cm，確認面からの深さ43cm である。

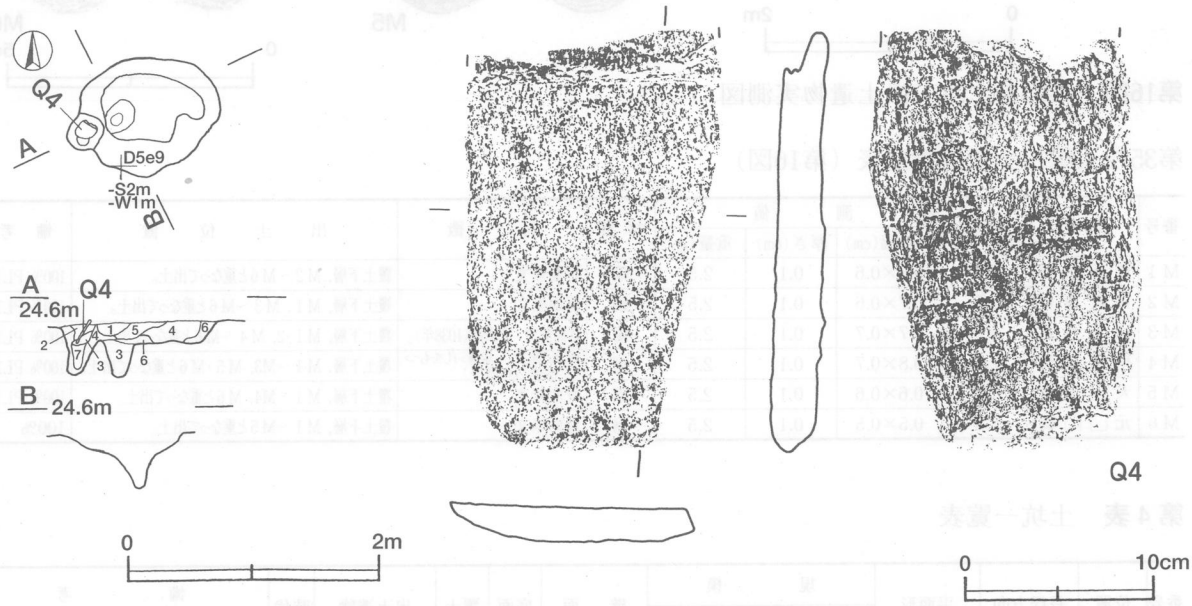
覆土　７層からなり，ロームブロックを含む黒色土がブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　褐　　色　ローム粒子多量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物　石造物１点が出土している。第15図Ｑ４は板碑の基部で，立位で検出されている。また，覆土中から骨粉が少量検出されている。

所見　本跡は土坑墓で，時期は出土遺物から中世以降と推定される。



第15図　第21号土坑・出土遺物実測図

第21号土坑出土遺物観察表（第15図）

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Ｑ４	板碑	(22.7)	18.0	2.5	1140.0	緑泥片岩	武蔵型板碑の基部。裏面にのみ痕。	西壁際ピットの覆土中層	30% PL 9

第35号土坑（第16図）

位置　調査区域の中央部東寄り，Ｄ６b1区。

重複関係　本跡は，第７号溝を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.20m，短径0.96mの隅丸長方形で，深さは64cmである。壁は外傾して立ち上がり，底面はほぼ平坦である。

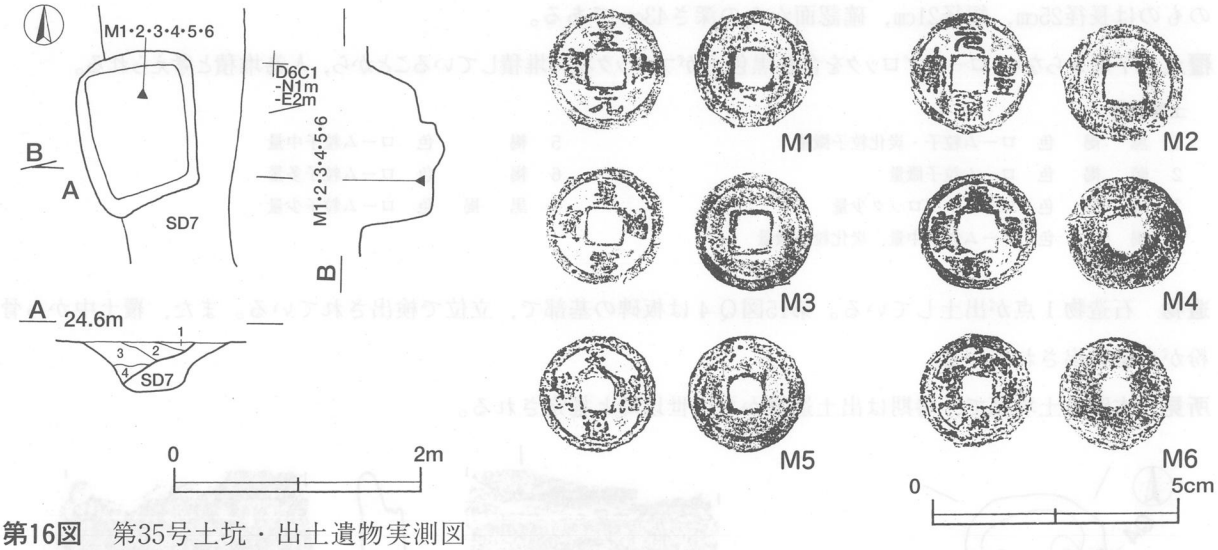
覆土　４層からなり，ロームブロックを含んだ不自然な堆積状況をしていることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量

遺物　古銭６点が出土している。第16図Ｍ１～６の古銭は，中央部北寄りの覆土下層から６枚が重なった状態で検出されている。

所見　本跡は土坑墓で，時期は出土遺物から中世以降と推定される。



第16図　第35号土坑・出土遺物実測図

第35号土坑出土遺物観察表（第16図）

番号	銭名	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		銭径(cm)	穿孔幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Ｍ１	景元祐寶	2.5	0.6×0.6	0.1	2.5	銅	背面無文	覆土下層，Ｍ２～Ｍ６と重なって出土。	100% PL10
Ｍ２	元豊通寶	2.5	0.7×0.6	0.1	2.5	銅	背面無文	覆土下層，Ｍ１，Ｍ３～Ｍ６と重なって出土。	100% PL10
Ｍ３	皇宋通寶	2.5	0.7×0.7	0.1	2.5	銅	背面無文　北宋銭(1038年)。	覆土下層，Ｍ１･2，Ｍ４～Ｍ６と重なって出土。	100% PL10
Ｍ４	皇宋通寶	2.5	0.8×0.7	0.1	2.5	銅	背面無文　星形孔をもつ北宋銭(1038年)	覆土下層，Ｍ１～M3，Ｍ５･Ｍ６と重なって出土。	100% PL10
Ｍ５	天□通寶	2.4	0.6×0.6	0.1	2.5	銅	背面無文	覆土下層，Ｍ１～M4，Ｍ６と重なって出土。	100% PL10
Ｍ６	元□□寶	2.3	0.5×0.5	0.1	2.5	銅	背面無文	覆土下層，Ｍ１～Ｍ５と重なって出土。	100%

第４表　土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						遺構番号・新旧関係(古→新)
1	Ｅ５C5	N－35°－W	楕円形	1.36×0.99	64	外傾	段差	人為			
2	Ｅ５C6	N－42°－E	不整楕円形	1.20×1.03	8	緩斜	皿状	人為			
3	Ｅ５C6	N－35°－E	不整楕円形	0.60×0.50	22	外傾	平坦	人為			
4	Ｄ５j2	－	円形	0.90×0.90	10	緩斜	平坦	自然			
5	Ｄ５i2	N－90°－W	隅丸長方形	1.08×0.75	20	外傾・緩斜	凸凹	人為			
6	Ｄ５i2	－	円形	1.07×1.00	29	緩斜	凸凹	自然			
7	Ｄ５i3	N－0°－E	隅丸長方形	0.79×0.65	13	緩斜	凸凹	人為			ＳＫ８→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						遺構番号・新旧関係(古→新)
8	D5i3	N－6°－E	不整楕円形	0.80×0.54	10	緩斜	皿状	自然			本跡→SK7
9	D5i1	N－34°－W	不定形	1.16×0.68	48	外傾	皿状	人為			
10	D5e2	N－19°－E	楕円形	0.90×0.70	28	外傾	凸凹	自然			
11	D6j2	N－25°－E	楕円形	0.72×0.50	14	緩斜	凸凹	人為	須恵器		
12	D6i2	N－40°－W	不整楕円形	1.06×0.72	20	緩斜	皿状	自然	陶器，骨		
13	D5h0	N－52°－W	不整楕円形	1.10×0.66	14	緩斜	段差	自然			
14	D5i0	N－40°－W	不整楕円形	0.76×0.46	3	緩斜	平坦	人為			
15	D5i1	N－67°－E	楕円形	0.86×0.56	66	外傾・緩斜	皿状	自然			
16	D5e1	N－75°－W	楕円形	0.34×0.25	20	外傾	段差	人為			
17	D4e0	－	円形	0.34×0.32	28	外傾	皿状	人為			
18	D4e0	N－16°－W	不整楕円形	0.36×0.28	44	外傾	平坦	人為			
19	D4e0	－	円形	0.32×0.30	30	外傾	皿状	人為			
20	D4f9	－	円形	0.48×0.44	30	直立・外傾	段差	人為			
21	D5e8	N－62°－E	不整楕円形	1.18×0.90	44	外傾・緩斜	平坦	人為	板碑，骨粉	中世	土坑墓
22	D5b8	N－35°－E	楕円形	0.86×0.76	20	外傾	平坦	人為			
23	D6c2	N－0°－E	隅丸長方形	1.16×0.78	7	緩斜	平坦	人為	骨片		SD7→本跡，中世の土坑墓ヵ
24	D6c2	N－38°－W	不整楕円形	1.24×0.85	16	緩斜	平坦	人為	骨片		SD7→本跡，中世の土坑墓ヵ
25	D6b2	N－64°－W	不整楕円形	1.24×0.78	27	緩斜	段差	人為	骨片		中世の土坑墓ヵ
26	D6b1	N－82°－W	不定形	0.93×0.63	10	緩斜	皿状	人為	骨片		中世の土坑墓ヵ
27	D6a1	N－63°－W	楕円形	0.73×0.46	8	緩斜	皿状	人為			中世の土坑墓ヵ
28	D6c3	N－75°－W	不定形	1.13×0.51	9	緩斜	平坦	人為			中世の土坑墓ヵ
29	D5c9	N－60°－E	隅丸長方形	0.66×0.46	22	直立・緩斜	平坦	人為			
30	D5c8	N－26°－W	不定形	0.93×0.90	7	緩斜	皿状	人為			中世の土坑墓ヵ
31	D5c9	N－63°－W	不定形	0.70×0.20	14	緩斜	皿状	人為			中世の土坑墓ヵ
32	D5c9	N－40°－W	不定形	0.95×0.61	29	緩斜	皿状	人為			中世の土坑墓ヵ
33	D5c9	N－84°－W	楕円形	0.79×0.58	8	緩斜	皿状	人為			中世の土坑墓ヵ
34	D5e9	N－25°－W	楕円形	1.18×0.75	32	緩斜	皿状	人為	骨片		中世の土坑墓ヵ
35	D6b1	N－14°－W	隅丸長方形	1.20×0.96	64	外傾・緩斜	段差	自然	古銭	中世	SD7→本跡，土坑墓
36	D8f3	N－2°－E	不整楕円形	0.70×0.44	19	緩斜	平坦	自然			
37	D8d2	N－46°－W	楕円形	0.43×0.18	21	緩斜	平坦	自然			
38	D8d1	N－22°－W	楕円形	0.46×0.40	16	緩斜	皿状	自然			
39	D7d0	N－67°－W	不整楕円形	0.53×0.38	23	外傾・緩斜	段差	人為			
40	C7h8	N－53°－E	楕円形	0.63×0.47	25	緩斜	皿状	自然			
41	C7g7	N－77°－E	楕円形	0.60×0.40	26	外傾・緩斜	段差	自然			
42	C7f8	N－50°－E	不定形	1.25×0.88	35	外傾	凸凹	人為			
43	C7e9	N－19°－W	楕円形	0.64×0.45	40	緩斜	段差	自然			
44	C7d9	N－85°－E	楕円形	0.79×0.47	13	緩斜	平坦	自然			
45	C7e7	N－88°－E	楕円形	1.02×0.80	16	緩斜	皿状	自然			
46	C7e6	N－16°－E	楕円形	0.55×0.47	16	外傾	凸凹	人為			
47	C7e6	N－44°－E	楕円形	0.60×0.47	25	外傾	皿状	人為			
48	C7e6	N－72°－E	隅丸長方形	0.78×0.47	26	緩斜	皿状	人為			
49	C7b5	N－53°－E	楕円形	0.63×0.44	15	外傾・緩斜	平坦	人為			
50	C6a7	N－54°－E	楕円形	1.12×0.88	20	緩斜	皿状	自然			
51	C7b7	N－59°－E	不定形	1.88×1.24	32	外傾・緩斜	凸凹	自然			
52	C7a8	N－65°－W	楕円形	0.57×0.36	24	外傾	皿状	自然			
53	B7j8	N－63°－E	楕円形	0.67×0.43	37	外傾・緩斜	皿状	人為			
54	C7a5	N－54°－E	楕円形	0.34×0.28	24	外傾	皿状	人為			
55	C7a3	N－85°－E	隅丸長方形	0.48×0.28	8	外傾・緩斜	皿状	自然			
56	B7j5	N－33°－E	楕円形	0.59×0.45	12	外傾	平坦	人為			
57	B7j5	N－1°－W	楕円形	0.44×0.28	20	外傾	皿状	人為			
58	B7i6	N－54°－E	楕円形	0.59×0.44	15	緩斜	皿状	人為			
59	B7h5	N－64°－E	不整楕円形	0.37×0.33	60	直立・外傾	皿状	不明			
60	B7e6	－	円形	0.29×0.28	53	直立	平坦	人為			
61	B7d7	N－72°－W	楕円形	0.74×0.53	20	緩斜	皿状	人為			
62	B7d7	N－75°－W	隅丸長方形	1.70×1.00	14	緩斜	平坦	自然			
63	B7d7	N－63°－E	不整楕円形	0.65×0.51	16	緩斜	皿状	自然			
64	B7e3	N－58°－E	隅丸長方形	0.53×0.38	15	緩斜	皿状	人為			
65	B7d3	N－86°－E	楕円形	0.86×0.28	26	外傾	平坦	人為			

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						遺構番号・新旧関係(古→新)
66	B 7 d3	N−26°−W	不整楕円形	0.44×0.41	20	外傾・緩斜	皿状	人為			
67	B 7 c6	N−42°−E	楕円形	0.70×0.46	20	直立・外傾	皿状	人為			
68	B 7 b6	N−74°−E	楕円形	0.96×0.67	27	外傾・緩斜	皿状	人為			
69	B 7 b7	N−58°−W	楕円形	1.14×0.60	22	外傾	平坦	人為			
70	B 7 b7	N−16°−W	楕円形	1.39×0.85	30	外傾・緩斜	段差	人為			
71	B 7 b5	N−54°−E	不定形	1.48×1.24	60	外傾・緩斜	皿状	人為			
72	B 7 a6	N−24°−W	楕円形	1.14×0.61	31	緩斜	皿状	人為			
73	B 7 a6	N−48°−W	楕円形	1.10×0.96	34	緩斜	段差	人為			
74	A 7 j6	N−28°−E	不定形	1.52×0.86	36	緩斜	皿状	人為			
75	A 7 h4	N−58°−E	不整楕円形	0.62×0.54	24	緩斜	皿状	人為			
76	A 7 j4	−	円形	0.62×0.62	10	緩斜	皿状	自然			
77	B 7 a1	−	円形	0.74×0.70	22	緩斜	皿状	人為			
78	B 5 d7	N−61°−E	楕円形	1.11×1.00	10	緩斜	皿状	人為			
79	B 5 g5	−	円形	0.54×0.54	18	緩斜	皿状	自然			
80	C 4 h9	N−83°−E	楕円形	1.28×1.09	24	緩斜	段差	自然			
81	B 4 h9	−	円形	0.86×0.79	10	緩斜	皿状	自然			
82	B 4 h9	N−12°−E	楕円形	0.88×0.62	21	緩斜	段差	自然			
83	B 4 e0	N−70°−E	不整楕円形	0.94×0.82	16	緩斜	平坦	人為			
84	B 4 e0	N−15°−W	楕円形	0.96×0.80	10	緩斜	平坦	自然			
85	B 4 i9	N−65°−W	楕円形	1.66×1.34	14	緩斜	平坦	人為			
86	B 4 j8	N−75°−E	楕円形	0.84×0.76	27	緩斜	平坦	人為			
87	B 4 j0	N−52°−E	楕円形	1.57×1.28	18	緩斜	凸凹	人為			
88	B 4 i8	−	円形	0.76×0.76	8	緩斜	皿状	自然			
89	B 4 g6	−	円形	0.39×0.37	20	外傾・緩斜	皿状	人為			
90	B 4 h5	N−28°−W	隅丸長方形	2.34×1.99	40	外傾・緩斜	平坦	人為			
91	B 4 h5	−	円形	1.10×1.08	28	緩斜	平坦	自然			
92	B 4 h4	−	円形	0.90×0.84	12	緩斜	平坦	人為			
93	B 4 g3	N−35°−W	楕円形	0.94×0.42	34	緩斜	凸凹	人為			
94	B 4 g3	N−40°−W	楕円形	0.64×0.36	36	緩斜	段差	人為			
95	B 4 g4	N−35°−E	隅丸方形	0.38×0.38	12	緩斜	皿状	自然			
96	C 4 b8	N−20°−E	楕円形	0.78×0.58	36	緩斜	凸凹	人為			
97	C 4 a0	N−43°−W	不整楕円形	1.04×0.94	43	直立・緩斜	段差	人為			
98	B 4 g6	N−25°−W	楕円形	0.78×0.44	28	外傾・緩斜	皿状	自然			
99	B 4 f5	−	円形	0.38×0.36	28	外傾	皿状	自然			
100	B 4 g5	N−16°−W	楕円形	0.32×0.28	34	外傾	皿状	人為			
101	B 7 d2	N−66°−E	楕円形	0.63×0.44	30	緩斜	皿状	自然			
102	B 7 c2	N−72°−E	楕円形	0.42×0.34	18	緩斜	皿状	自然			
103	A 7 j6	N−50°−E	不整楕円形	1.40×0.91	28	緩斜	皿状	自然			
104	C 4 g5	N−20°−E	楕円形	0.98×0.90	24	緩斜	段差	自然			
105	C 4 g5	N−70°−E	楕円形	0.56×0.46	26	緩斜	皿状	自然			
106	C 4 g4	N−30°−W	楕円形	2.34×0.98	68	緩斜	皿状	人為			
107	C 4 g6	N−30°−W	不整楕円形	1.46×1.08	20	緩斜	平坦	人為			
108	C 5 c2	N−14°−W	楕円形	0.58×0.50	38	緩斜	皿状	自然			
109	C 4 f7	N−20°−W	楕円形	0.44×0.38	20	緩斜	皿状	自然			
110	B 4 f7	N−90°−E	楕円形	0.74×0.66	14	緩斜	平坦	自然			SD10→本跡
111	C 5 f2	−	円形	1.00×0.96	32	緩斜	皿状	自然			
112	C 5 h3	N−30°−E	楕円形	0.94×0.60	12	緩斜	平坦	人為	土師質土器		
113	C 5 i1	N−90°−E	隅丸長方形	1.10×0.80	52	直立・外傾	段差	自然			
114	C 4 e2	N−75°−E	楕円形	1.50×0.42	49	直立・緩斜	段差	人為			
115	C 4 e2	N−8°−W	楕円形	1.36×0.76	16	緩斜	皿状	人為			
116	C 4 f2	N−0°−E	隅丸方形	0.88×0.82	51	直立・外傾	平坦	人為			
117	C 4 g2	N−81°−E	不整形	2.64×1.96	21	緩斜	平坦	人為			
118	C 4 f1	N−0°−E	不整円形	1.50×1.40	11	緩斜	皿状	人為			
119	C 3 f0	N−9°−E	不定形	1.40×1.12	50	外傾・緩斜	皿状	自然			
120	C 3 f0	N−52°−E	不定形	1.41×1.20	32	緩斜	段差	人為			
121	C 3 f9	N−0°−E	楕円形	1.48×1.16	39	緩斜	段差	人為			
122	C 3 g8	N−26°−W	不定形	1.46×1.00	25	緩斜	凸凹	人為			
123	C 3 f6	N−39°−E	楕円形	0.71×0.60	22	外傾・緩斜	皿状	人為			

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						遺構番号・新旧関係(古→新)
124	C 3 d0	N－33°－E	不定形	1.07×0.77	41	外傾・緩斜	段差	自然			
125	C 3 d9	－	円形	0.91×0.87	21	緩斜	平坦	自然			
126	C 3 d8	N－80°－E	不整楕円形	1.58×0.52	7	外傾・緩斜	平坦	人為			
127	C 3 d8	N－0°－E	楕円形	0.98×0.74	13	緩斜	平坦	人為			
128	C 3 d7	N－59°－E	不定形	1.36×1.05	9	緩斜	段差	自然			
129	C 3 d6	N－24°－W	楕円形	0.75×0.54	5	緩斜	平坦	自然			
130	C 3 c5	－	円形	1.02×1.00	13	外傾・緩斜	平坦	自然			
131	C 3 c5	－	円形	1.02×1.01	12	緩斜	平坦	自然			
132	C 3 b5	N－0°－E	楕円形	0.66×0.48	18	緩斜	皿状	人為			SD10→本跡
133	C 3 d4	N－76°－E	楕円形	1.14×0.80	11	外傾	平坦	自然			
134	C 3 d4	N－35°－E	不整長方形	0.79×0.70	13	外傾	平坦	自然	土師質土器		
135	B 4 i1	N－50°－E	楕円形	0.66×0.35	9	緩斜	皿状	自然			
136	C 3 g7	－	円形	0.96×0.90	8	緩斜	平坦	自然			
137	C 3 f6	N－43°－W	不整楕円形	1.11×0.71	8	緩斜	段差	自然			
138	C 4 h2	N－3°－W	不整楕円形	0.58×0.35	8	緩斜	平坦	自然			
139	C 4 h1	N－64°－E	不整楕円形	0.52×0.31	44	外傾・緩斜	平坦	人為			
140	C 3 g0	N－67°－E	不定形	0.56×0.41	37	外傾・緩斜	皿状	人為			
141	C 4 b3	N－28°－W	不定形	1.44×0.92	12	緩斜	段差	自然			
142	C 3 j2	N－71°－E	不定形	2.16×1.00	14	緩斜	平坦	人為			
143	B 4 i1	N－41°－E	長方形	1.39×0.91	20	緩斜	皿状	人為			
144	C 3 f5	N－9°－E	楕円形	0.64×0.53	16	緩斜	皿状	自然			
145	B 3 h0	N－68°－W	長方形	0.86×0.58	6	緩斜	皿状	人為			
146	B 3 i6	－	円形	0.66×0.60	33	外傾	段差	自然			
147	B 3 i4	－	円形	0.51×0.48	26	外傾・緩斜	皿状	人為			
148	B 3 i3	N－80°－E	楕円形	2.40×1.10	37	緩斜	平坦	人為			
149	C 2 d3	－	円形	0.72×0.68	11	緩斜	平坦	自然			
150	C 2 d2	N－22°－W	不定形	0.56×0.50	15	緩斜	皿状	人為			
151	C 2 d1	－	円形	1.42×1.36	28	外傾・緩斜	平坦	人為			
152	C 1 d0	－	円形	1.52×1.48	23	緩斜	平坦	人為			
153	C 1 d0	－	円形	1.10×1.05	14	緩斜	皿状	自然			
154	C 1 d0	－	円形	1.55×1.42	32	外傾	平坦	人為			
155	C 1 c1	－	円形	1.45×1.38	28	外傾・緩斜	平坦	自然			
156	C 2 c1	N－0°－E	不整長方形	3.26×0.80	18	緩斜	凸凹	人為			
157	C 1 c0	－	円形	1.53×1.40	22	緩斜	平坦	人為			
158	C 1 c0	－	円形	1.59×1.59	26	緩斜	平坦	人為			
159	C 1 c0	N－90°－E	不整円形	0.89×0.75	11	緩斜	平坦	人為			
160	C 1 e9	－	円形	1.11×1.10	13	緩斜	平坦	自然			
161	C 1 f8	－	円形	1.20×1.19	23	外傾・緩斜	平坦	人為			
162	C 1 f8	－	円形	1.19×1.11	44	直立・外傾	平坦	人為			
163	C 1 f8	－	円形	1.18×1.08	41	外傾	平坦	人為	土師質土器		
164	C 1 f8	N－60°－W	楕円形	1.17×1.05	25	外傾・緩斜	平坦	人為			
165	C 1 f0	N－14°－W	不定形	1.28×0.98	51	緩斜	段差	人為			
166	C 1 f0	－	円形	0.38×0.37	55	外傾	皿状	人為			
167	C 1 g0	－	円形	1.04×0.95	15	外傾・緩斜	平坦	自然			
168	C 1 h9	－	円形	0.82×0.77	10	緩斜	平坦	自然			
169	C 1 h8	N－32°－W	楕円形	0.75×0.30	62	外傾・緩斜	皿状	人為			
170	C 1 h8	N－31°－E	不整楕円形	1.55×1.40	31	緩斜	平坦	人為			
171	C 1 i9	－	円形	1.08×1.03	20	緩斜	平坦	人為			
172	C 1 i9	－	円形	140×1.34	51	外傾	平坦	人為			
173	C 1 i0	N－15°－W	楕円形	0.79×0.68	18	緩斜	段差	自然			
174	C 2 j2	－	円形	0.84×0.81	30	緩斜	段差	自然			
175	C 2 i7	N－56°－E	楕円形	1.32×0.82	14	緩斜	段差	自然			
176	C 2 i7	N－31°－W	不整楕円形	1.26×0.50	19	緩斜	皿状	人為			
177	C 2 f6	N－23°－W	不整楕円形	1.07×0.54	12	緩斜	皿状	人為			
178	C 2 f5	N－53°－E	不整楕円形	1.05×0.74	9	外傾	皿状	自然			
179	C 2 f4	－	円形	1.02×1.00	20	緩斜	皿状	自然			
180	C 1 h0	N－20°－E	楕円形	0.65×0.48	15	外傾	皿状	人為			
181	C 1 d0	N－24°－W	［円形］	1.10×1.10	24	外傾	平坦	人為			

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						遺構番号・新旧関係(古→新)
182	C 1 e9	N－55°－E	［円形］	1.20×0.52	36	緩斜	段差	自然			
183	C 1 e9	N－22°－W	［円形］	0.72×0.47	32	外傾・緩斜	段差	自然			
184	C 1 e0	N－43°－W	楕円形	0.42×0.28	8	緩斜	皿状	人為			
185	B 1 h5	N－90°－E	楕円形	0.98×0.87	42	外傾	皿状	人為			
186	C 3 h1	N－58°－W	不定形	0.65×0.43	28	外傾	平坦	不明			
187	C 3 i1	N－47°－E	不定形	0.50×0.45	26	外傾	平坦	不明			
188	C 3 i5	N－77°－W	楕円形	1.59×1.02	42	外傾	平坦	人為			SD15→本跡
189	D 3 e2	N－46°－E	不定形	1.49×1.25	18	緩斜	平坦	人為			
190	D 3 e2	N－21°－W	不定形	1.59×0.62	10	緩斜	皿状	人為			
191	D 3 e3	N－56°－W	不定形	0.93×0.87	22	緩斜	皿状	自然			
192	D 3 e3	N－15°－E	不整楕円形	1.05×0.92	19	緩斜	平坦	人為			
193	D 3 e3	N－50°－E	不整楕円形	1.31×1.11	9	緩斜	皿状	人為			
194	D 3 e3	N－73°－E	楕円形	0.85×0.75	13	外傾・緩斜	平坦	人為			
195	D 3 e4	N－0°－E	不整楕円形	1.61×0.82	9	緩斜	平坦	人為			
196	D 3 d2	N－2°－W	不定形	1.23×0.93	29	緩斜	段差	人為			
197	D 3 d2	N－89°－W	隅丸長方形	3.96×0.80	16	緩斜	平坦	自然			本跡→SK198
198	D 3 d3	－	円形	1.14×1.04	16	外傾・緩斜	段差	人為			SK7→本跡
199	D 3 d3	N－25°－W	不定形	0.80×0.76	24	緩斜	皿状	人為			SK215→本跡，SK226→本跡
200	D 3 d4	N－9°－W	隅丸長方形	(3.29)×0.71	12	緩斜	平坦	自然			本跡→SK215，本跡→SK226
201	D 3 d4	N－3°－E	隅丸長方形	1.58×〔0.80〕	7	緩斜	平坦	人為			
202	D 3 e4	N－2°－E	隅丸長方形	1.52×〔0.73〕	6	緩斜	平坦	自然			
203	D 3 f4	－	円形	1.02×0.94	10	外傾・緩斜	平坦	自然			
204	D 3 f5	－	円形	0.78×0.72	21	緩斜	段差	自然			
205	D 3 f5	N－24°－W	隅丸長方形	2.56×1.34	18	緩斜	平坦	自然			SK206→本跡
206	D 3 e5	N－17°－W	隅丸長方形	(2.60)×0.74	14	緩斜	平坦	自然			本跡→SK205
207	D 3 e5	N－19°－W	不整楕円形	0.60×0.46	30	外傾	段差	人為			
208	D 3 c3	N－0°－E	不整円形	0.98×0.94	16	緩斜	平坦	人為			
209	D 3 c4	N－0°－E	隅丸長方形	(3.52×0.96)	23	緩斜	皿状	人為			SK216→本跡→SD21
210	D 3 c5	N－25°－W	不定形	1.02×0.80	7	緩斜	平坦	人為			SK218→本跡
211	D 3 c3	N－0°－E	隅丸長方形	1.46×0.76	14	緩斜	平坦	人為			SD21→本跡
212	C 3 i1	N－45°－W	楕円形	0.38×0.23	23	直立	平坦	人為			
213	D 3 b1	N－13°－E	隅丸長方形	0.74×0.68	8	緩斜	平坦	自然			
214	D 3 b1	N－80°－E	楕円形	0.58×0.52	10	緩斜	皿状	自然			
215	D 3 d4	N－81°－E	隅丸長方形	3.02×0.86	14	緩斜	平坦	人為			SK200・216→本跡→SK199
216	D 3 d4	N－19°－W	不定形	4.58×1.20	16	緩斜	平坦	自然			SD21，SK217→本跡→SK209・215
217	D 3 d4	N－0°－E	不整円形	1.10×0.87	16	緩斜	平坦	人為			本跡→SK216
218	D 3 d5	N－8°－E	隅丸長方形	4.48×1.35	23	緩斜	平坦	人為	須恵器，土師質土器，炭化材		本跡→SK210
219	D 2 b7	N－74°－E	楕円形	1.22×0.94	16	緩斜	凸凹	自然			
220	C 2 j9	N－16°－E	隅丸長方形	0.96×0.90	12	緩斜	平坦	人為			
221	C 3 h2	N－13°－W	隅丸長方形	1.16×0.66	16	緩斜	皿状	不明			
222	C 3 j6	N－20°－W	不整長方形	1.14×1.04	32	緩斜	段差	人為			
223	D 3 a1	－	円形	0.70×0.68	38	緩斜	皿状	自然			
224	C 3 j4	N－5°－W	隅丸長方形	1.19×0.62	20	直立・緩斜	平坦	自然			
225	D 2 b3	N－90°－E	隅丸長方形	1.34×1.04	8	緩斜	平坦	人為			
226	D 3 d3	N－0°－E	不定形	1.10×1.02	19	緩斜	皿状	自然			SK200→本跡→SK199

3　遺構外出土遺物（第17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27図）

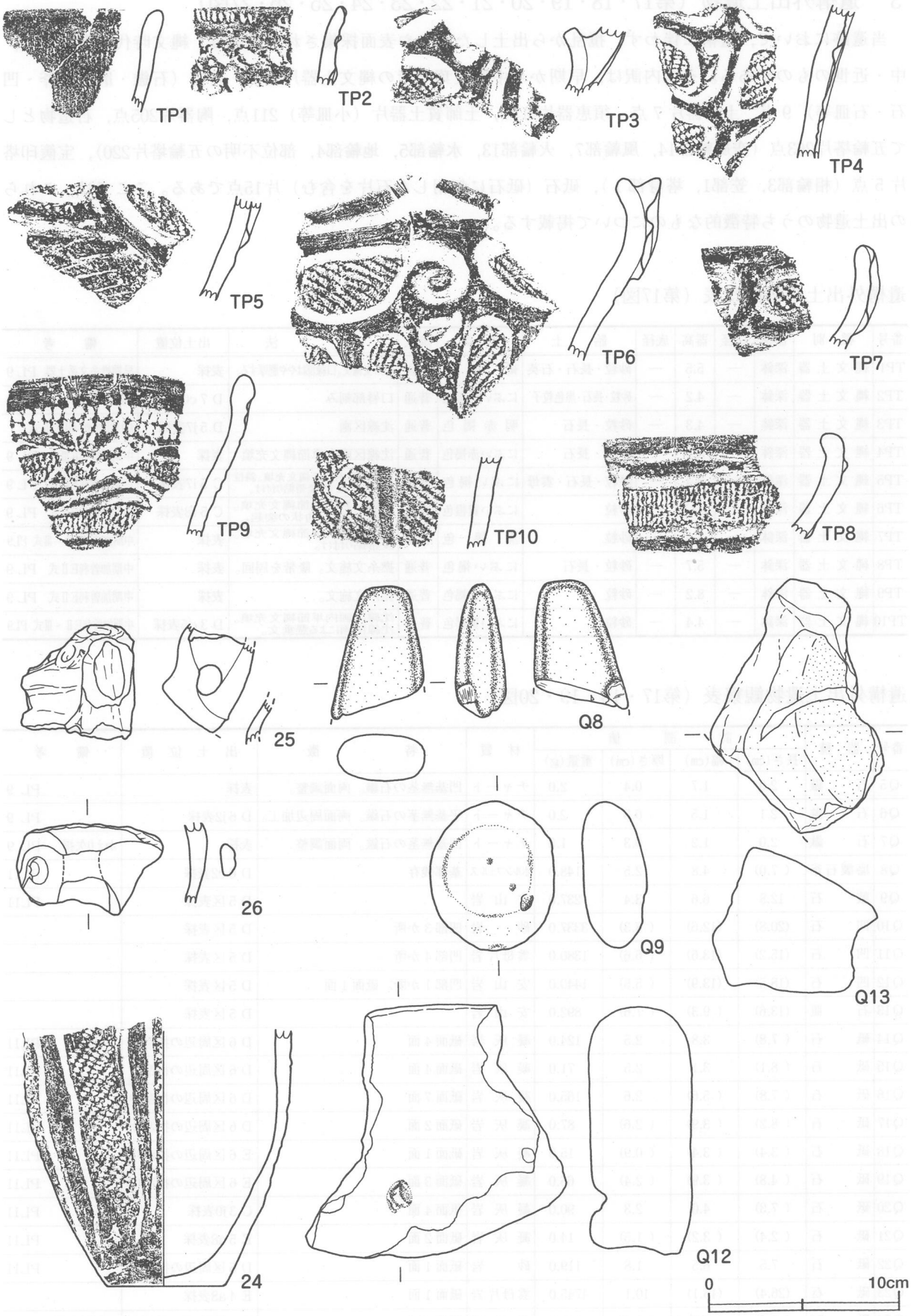
当遺跡において，遺構に伴わず，撹乱から出土した遺物や表面採集された遺物は，縄文時代，奈良時代，中・近世のものがある。その内訳は，早期から中期後葉までの縄文土器片86点，石器（石鏃・磨製石斧・凹石・石皿等）９点，土師器片７点，須恵器片２点，土師質土器片（小皿等）211点，陶器片205点，石造物として五輪塔片263点（空風輪部14，風輪部7，火輪部13，水輪部5，地輪部4，部位不明の五輪塔片220），宝篋印塔片５点（相輪部3，笠部1，塔身部１），砥石（砥石に転用した石片を含む）片15点である。ここでは，これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。

遺構外出土遺物観察表（第17図）

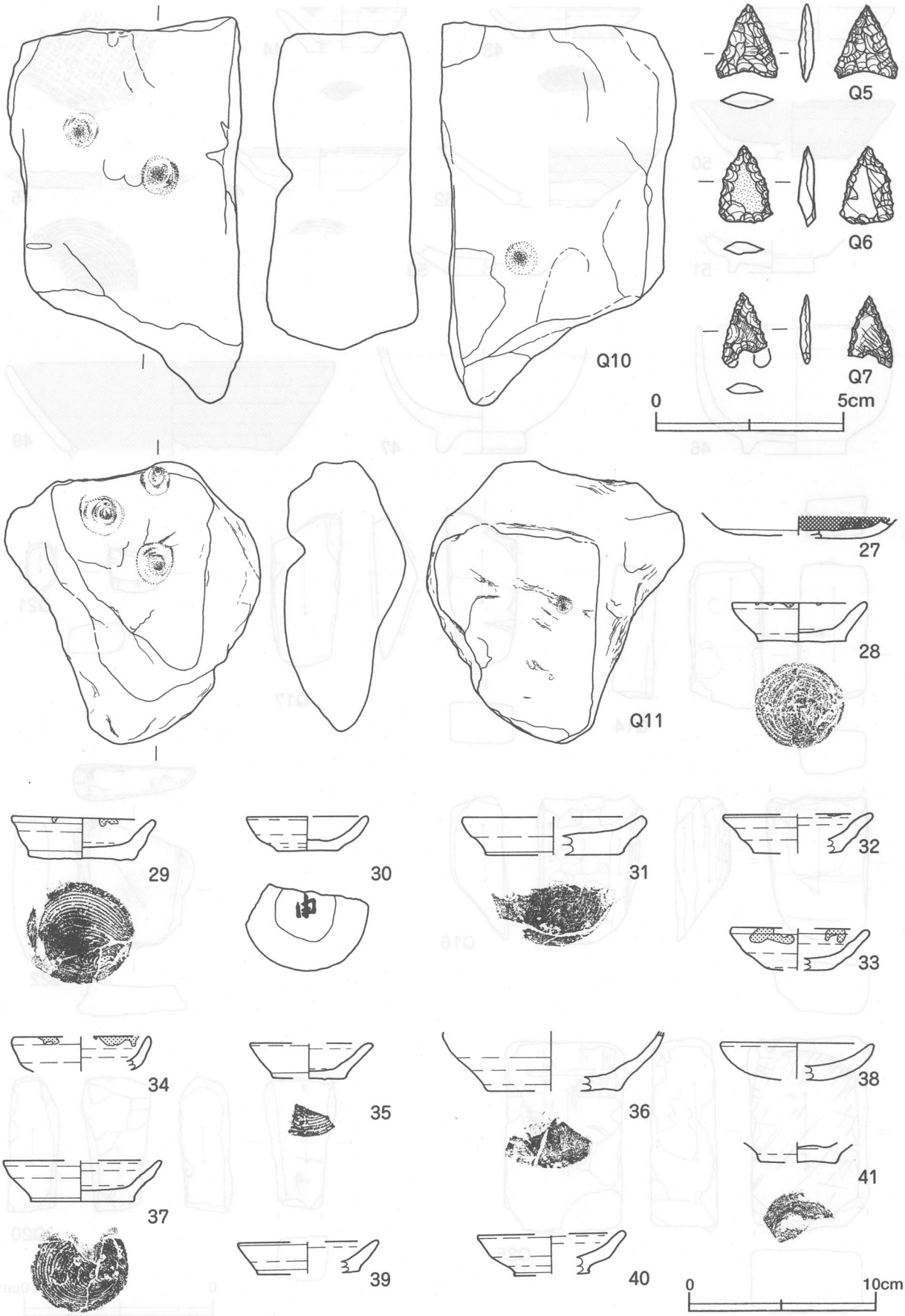
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	—	5.5	—	砂粒・長石・石英	褐灰色	普通	撚糸文施文。口縁部はやや肥厚する。	表採	早期撚糸文系土器 PL 9
TP2	縄文土器	深鉢	—	4.2	—	砂粒・長石・黒色粒子	にぶい黄橙色	普通	口唇部刻み	D 7 c0表採	前期浮島式 PL 9
TP3	縄文土器	深鉢	—	4.3	—	砂粒・長石	明赤褐色	普通	沈線区画	D 5 j7表採	中期加曽利EⅢ式
TP4	縄文土器	深鉢	—	8.0	—	砂粒・長石	にぶい赤褐色	普通	沈線区画内単節縄文充填	表採	中期加曽利EⅢ式 PL 9
TP5	縄文土器	深鉢	—	5.4	—	砂粒・長石・雲母	にぶい褐色	普通	沈線区画内単節縄文充填。斜位の平行沈線文。隆帯貼り付け。	C 5 i7表採	中期加曽利EⅢ式 PL 9
TP6	縄文土器	深鉢	—	10.1	—	砂粒	にぶい黄橙色	普通	沈線区画内単節縄文充填。沈線区画文。角状の突起。	C 5 f8表採	中期加曽利EⅢ式 PL 9
TP7	縄文土器	深鉢	—	5.5	—	砂粒	黒褐色	普通	沈線区画内単節縄文充填。隆帯貼り付け。	表採	中期加曽利EⅡ～Ⅲ式 PL9
TP8	縄文土器	深鉢	—	5.7	—	砂粒・長石	にぶい褐色	普通	撚糸文施文。隆帯を周回。	表採	中期加曽利EⅡ式 PL 9
TP9	縄文土器	深鉢	—	8.2	—	砂粒	にぶい黄褐色	普通	撚糸文施文。	表採	中期加曽利EⅡ式 PL 9
TP10	縄文土器	深鉢	—	4.4	—	砂粒	にぶい黄褐色	普通	沈線区画内単節縄文充填。沈線区画による懸垂文。	D 3 d5表採	中期加曽利EⅡ～Ⅲ式 PL9

遺構外出土遺物観察表（第17・18・19・20図）

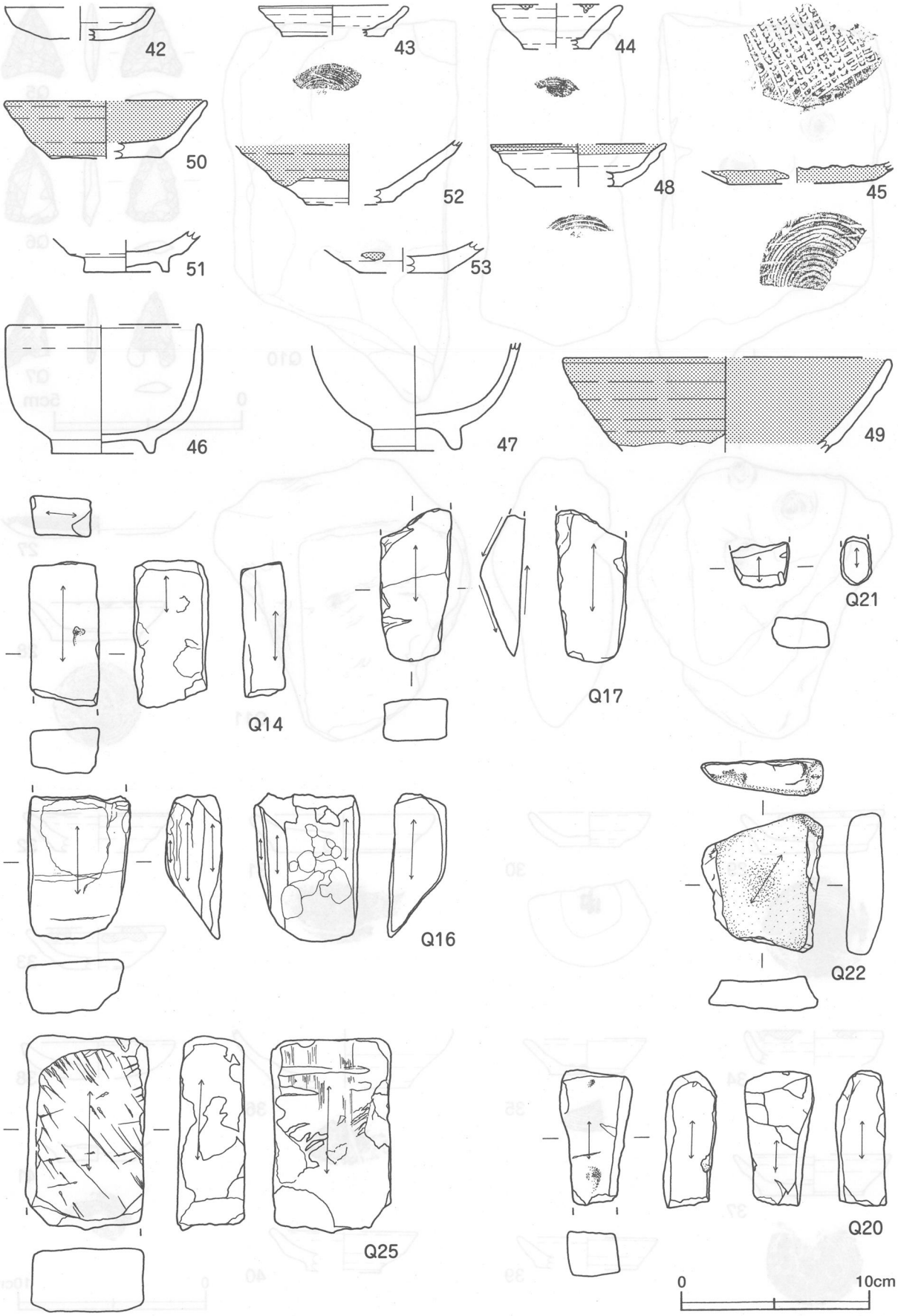
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5	石鏃	2.0	1.7	0.4	2.0	チャート	凹基無茎の石鏃。両面調整。	表採	PL 9
Q6	石鏃	2.1	1.5	0.3	2.0	チャート	平基無茎の石鏃。両面周辺加工。	D 6 j2表採	PL 9
Q7	石鏃	2.0	1.2	0.3	1.5	チャート	凹基無茎の石鏃。両面調整。	表採	かえり欠損 PL 9
Q8	磨製石斧	(7.0)	4.8	2.5	148.0	ホルンフェルス	基部残存	D 6 c2表採	PL11
Q9	敲石	12.8	6.6	3.4	237.0	安山岩		D 5 区表採	PL11
Q10	凹石	(20.8)	(12.6)	(8.3)	3337.0	砂岩	凹部３か所	D 5 区表採	
Q11	凹石	(15.2)	(13.6)	(6.6)	1380.0	雲母片岩	凹部４か所	D 5 区表採	
Q12	凹石	(18.5)	(13.9)	(5.5)	1440.0	安山岩	凹部１か所。砥面１面。	D 5 区表採	
Q13	石皿	(13.6)	(9.3)	(7.6)	892.0	安山岩		D 5 区表採	
Q14	砥石	(7.8)	3.8	2.5	124.0	凝灰岩	砥面４面	D 6 区周辺の撹乱中	PL11
Q15	砥石	(8.1)	3.1	2.5	71.0	凝灰岩	砥面４面	D 6 区周辺の撹乱中	PL11
Q16	砥石	(7.8)	(5.6)	2.6	165.0	凝灰岩	砥面７面	D 6 区周辺の撹乱中	PL11
Q17	砥石	(8.2)	(3.9)	(2.6)	87.0	凝灰岩	砥面２面	D 6 区周辺の撹乱中	PL11
Q18	砥石	(3.4)	(3.4)	(0.9)	15.0	凝灰岩	砥面１面	E 6 区周辺の撹乱中	PL11
Q19	砥石	(4.8)	(3.9)	(2.4)	66.0	凝灰岩	砥面３面	E 6 区周辺の撹乱中	PL11
Q20	砥石	(7.3)	4.0	2.3	90.0	凝灰岩	砥面４面	C 3 j0表採	PL11
Q21	砥石	(2.4)	(3.2)	(1.5)	14.0	凝灰岩	砥面２面	E 5 a8表採	PL11
Q22	砥石	7.5	6.5	1.8	119.0	砂岩	砥面１面	D 6 区周辺の撹乱中	PL11
Q23	砥石	(26.4)	(15.1)	10.1	4745.0	雲母片岩	砥面１面	E 4 a8表採	
Q24	砥石	(8.6)	(9.4)	(3.5)	326.0	花崗岩	部位不明	D 6 区周辺の撹乱中	五輪塔を転用カ PL11
Q25	砥石	(10.5)	6.6	3.4	425.0	砂岩	使用面３面	D 5 区表採	PL11



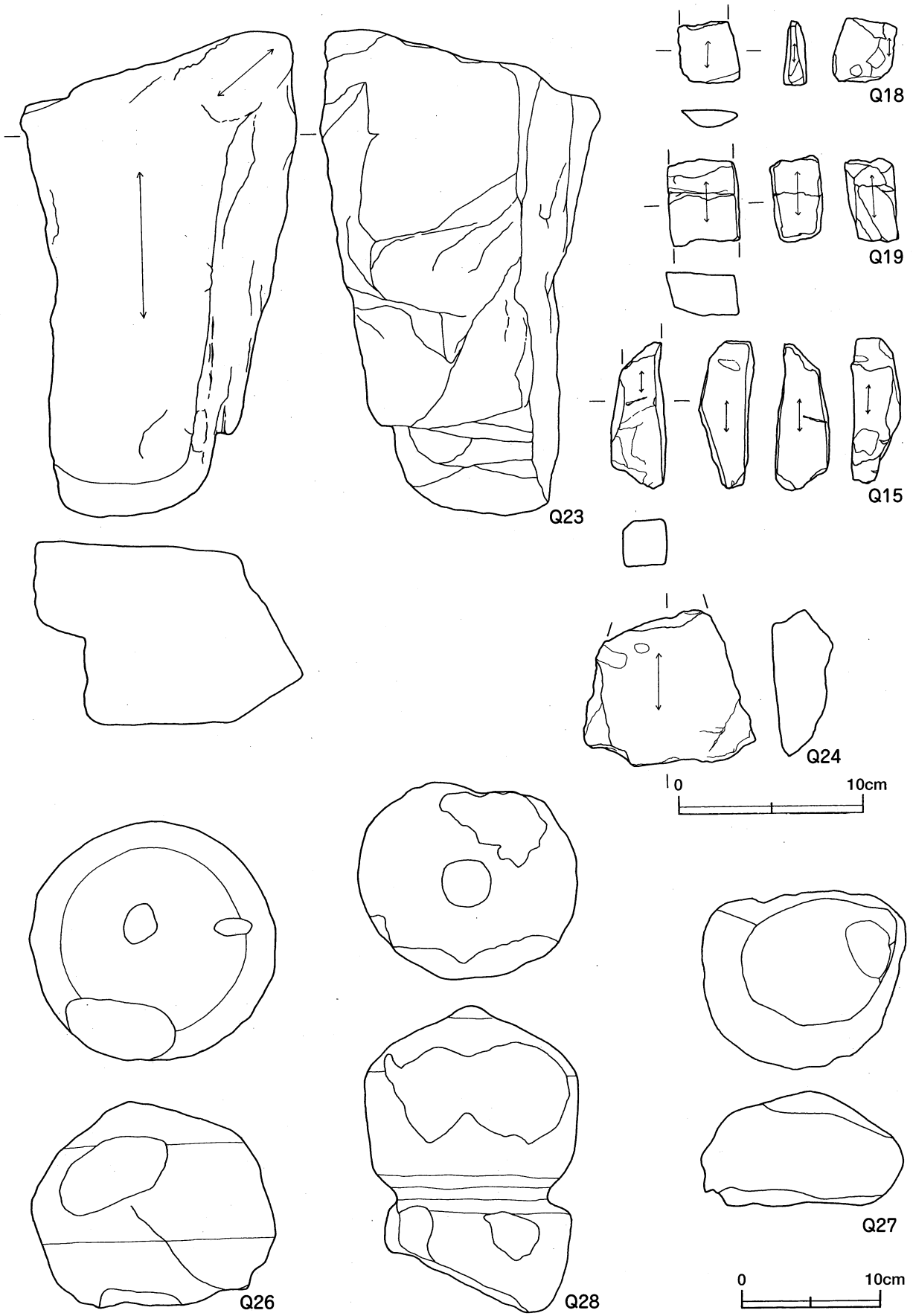
第17図　遺構外出土遺物実測図(1)



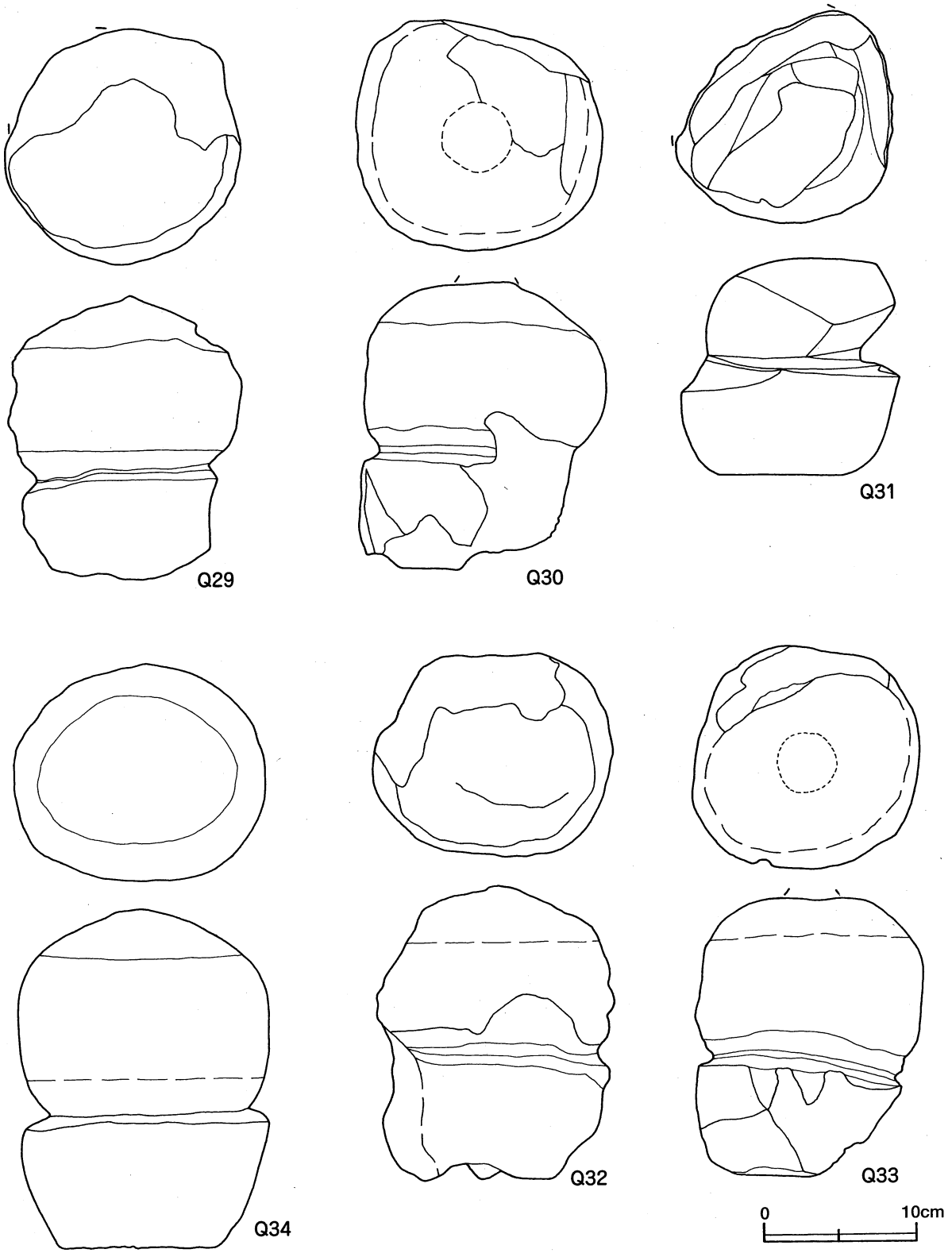
第18図　遺構外出土遺物実測図(2)



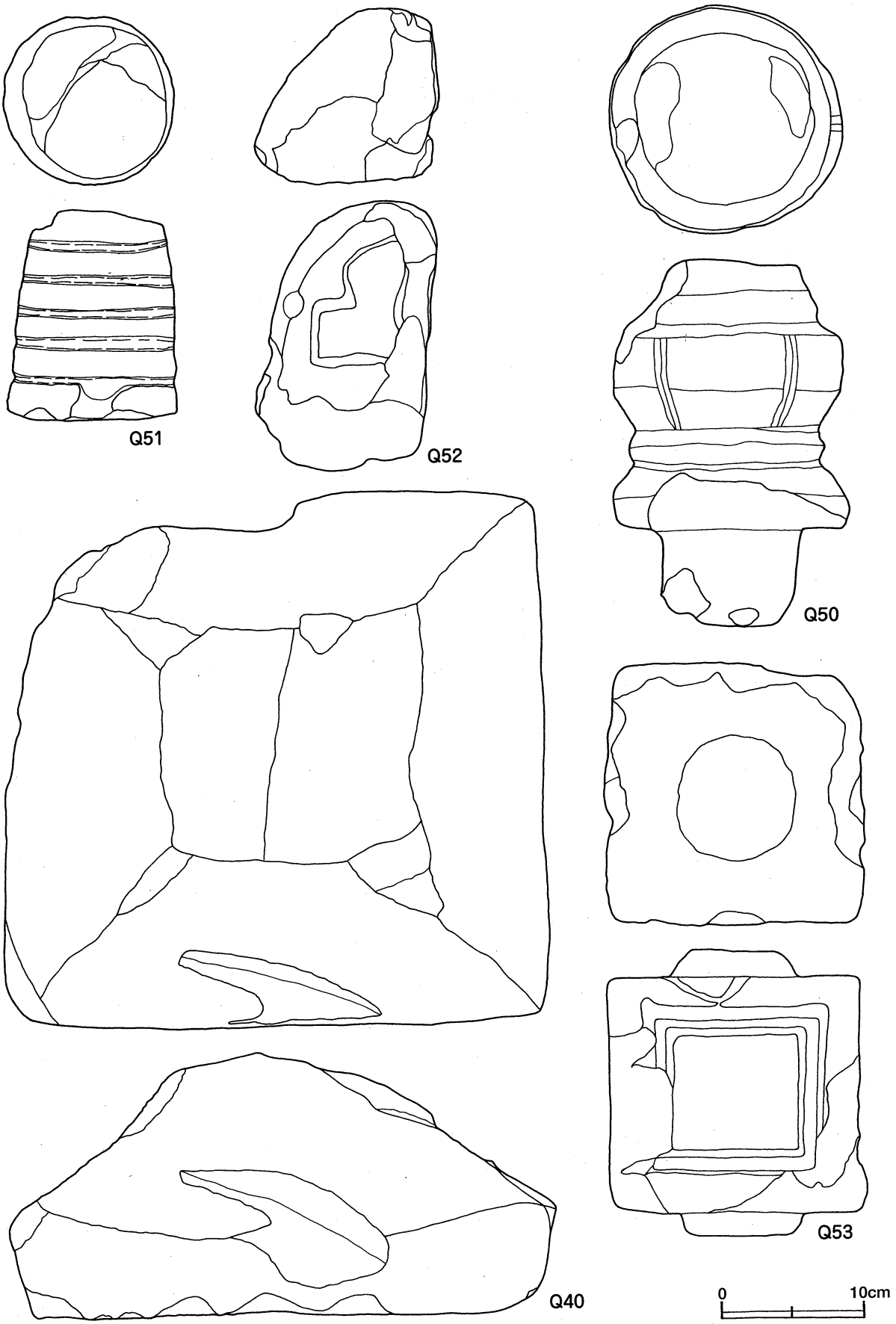
第19図　遺構外出土遺物実測図(3)



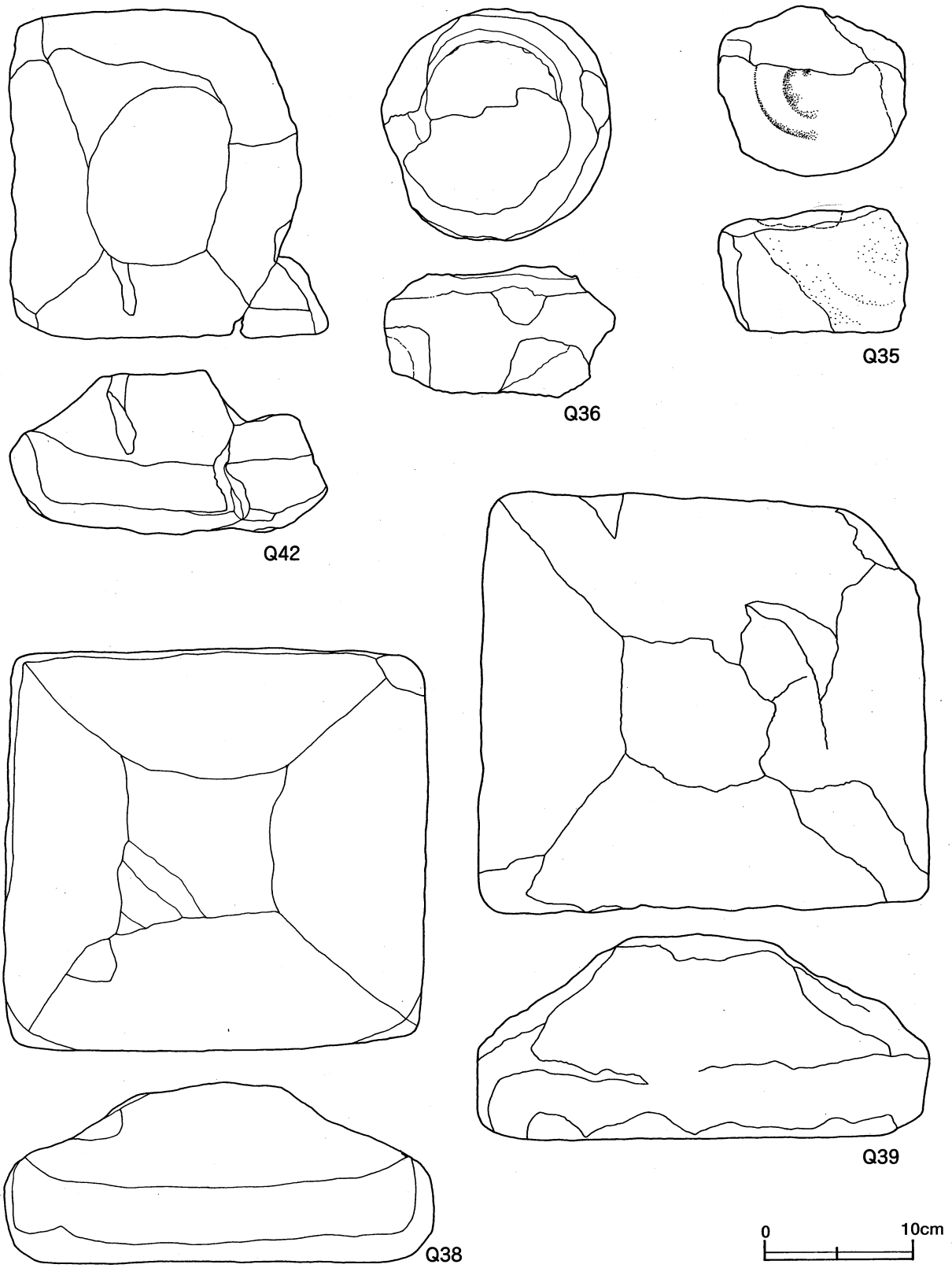
第20図　遺構外出土遺物実測図(4)



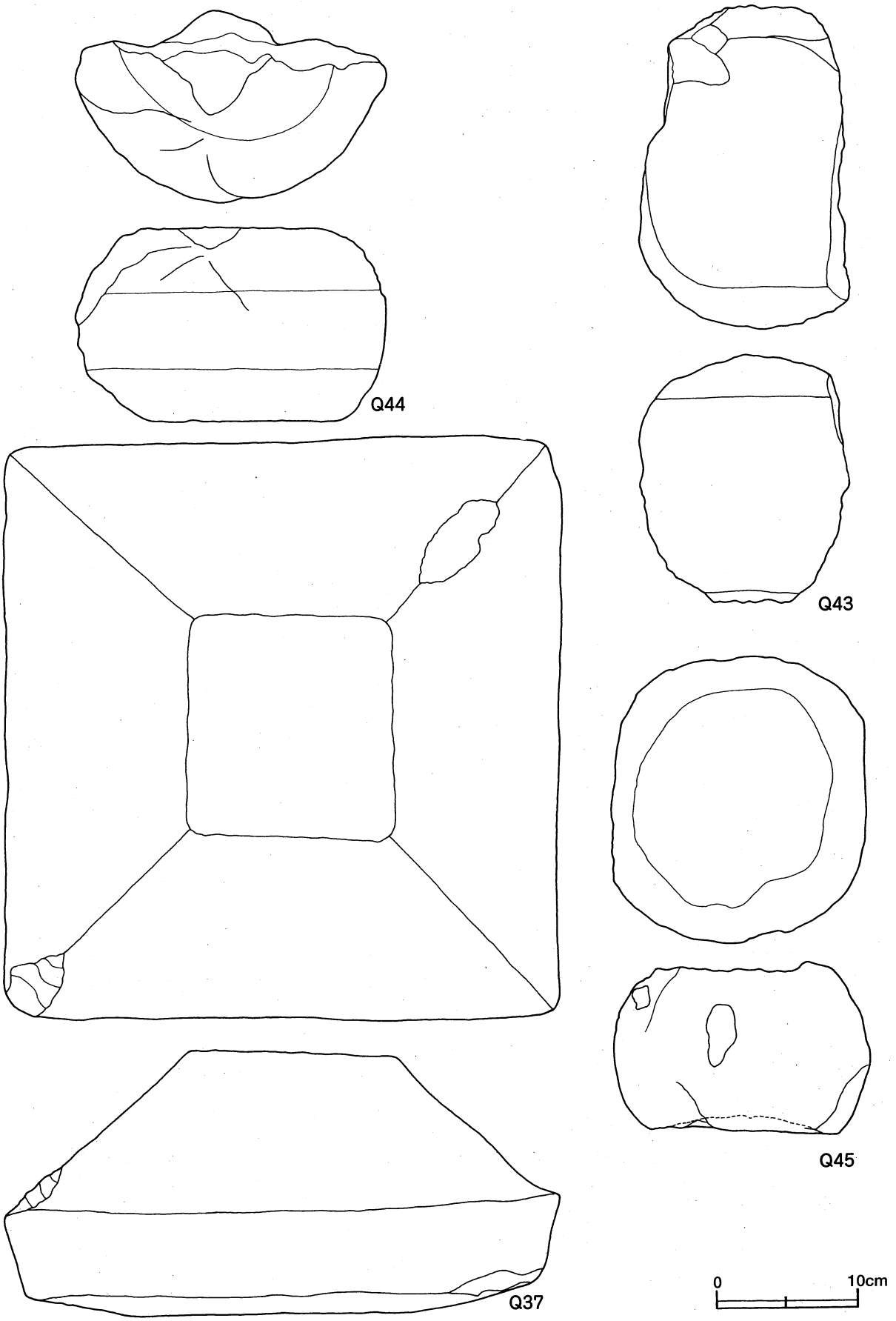
第21図　遺構外出土遺物実測図(5)



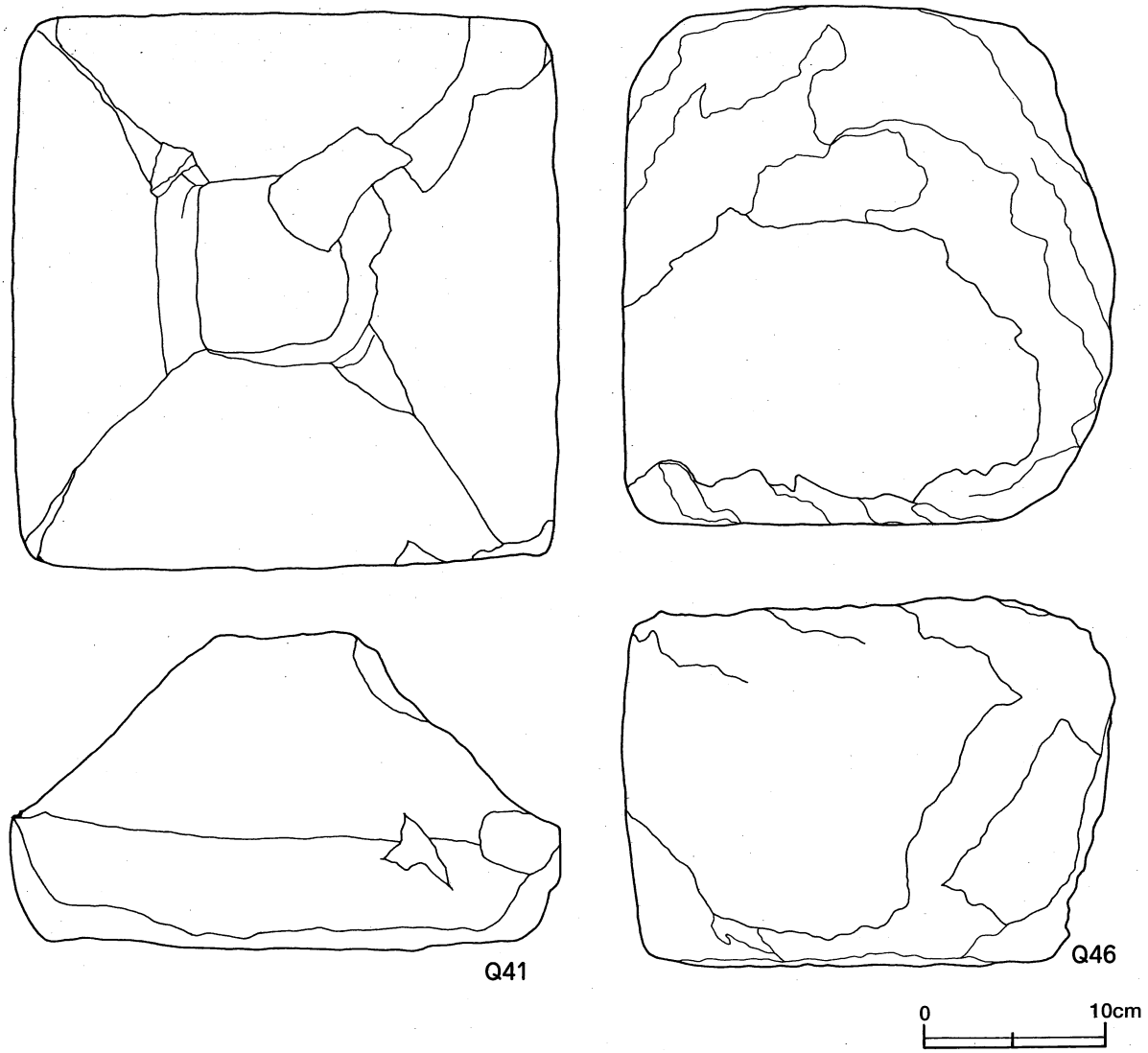
第22図　遺構外出土遺物実測図(6)



第23図　遺構外出土遺物実測図(7)



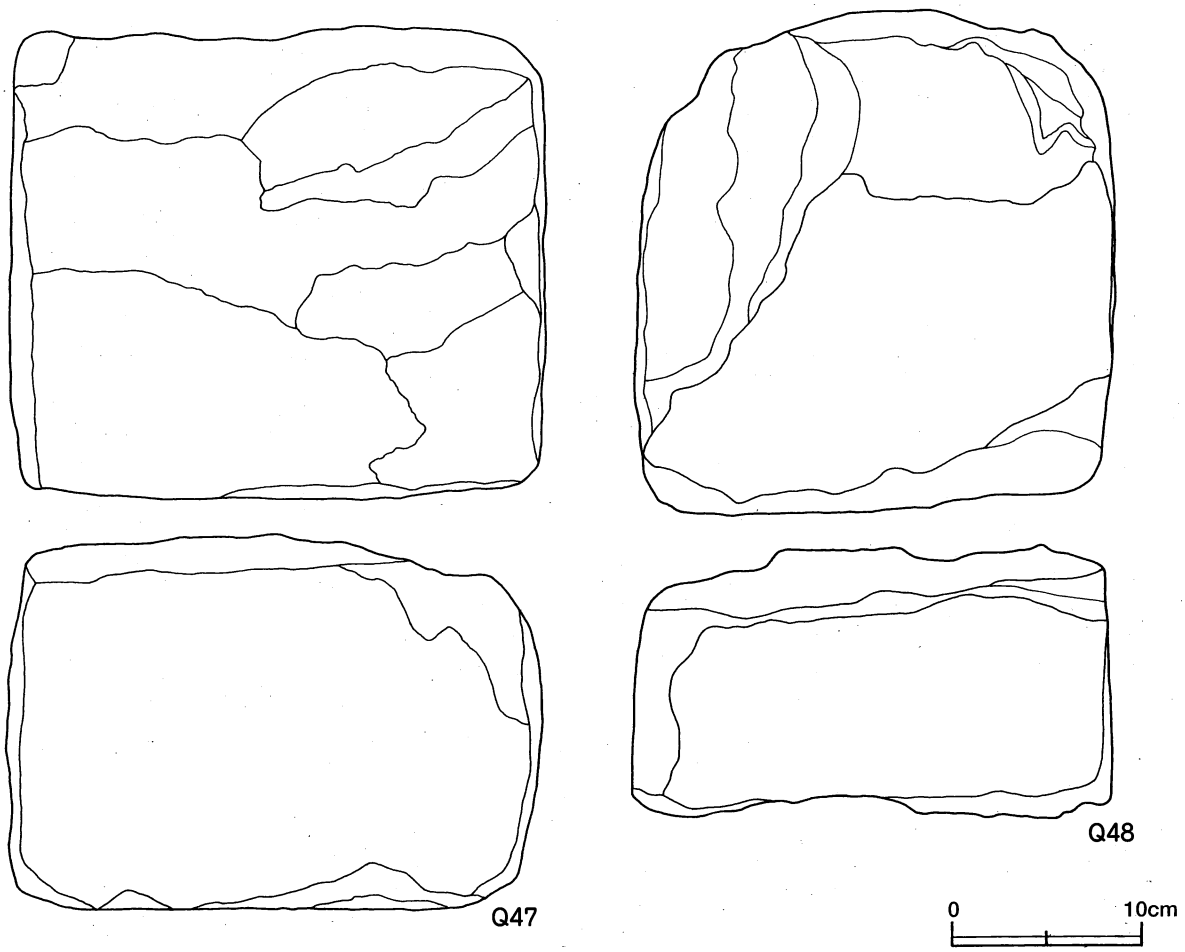
第24図　遺構外出土遺物実測図(8)



第25図　遺構外出土遺物実測図(9)

遺構外出土遺物観察表（第17・18図）

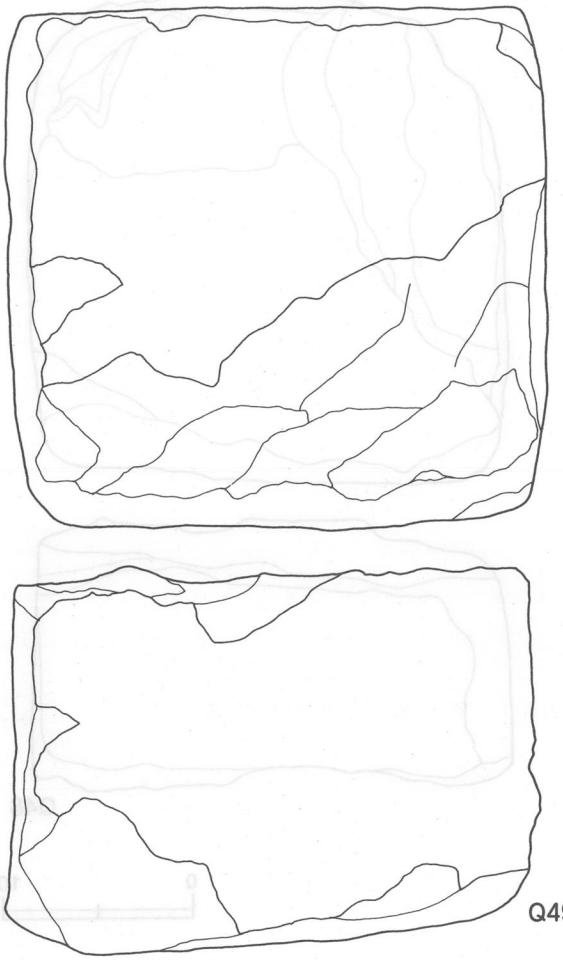
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法	出土位置	備　考
24	縄文土器	深鉢	(14.2)	(13.6)	6.3	砂粒	にぶい黄橙色	普通	単節縄文。沈線区画による懸垂文。	加曽利EⅡ式期。B1h5表採。	50%　PL 8
25	縄文土器	深鉢	—	6.2	—	砂粒	にぶい褐色	普通	渦状の沈線文	表採	注口部，5%
26	縄文土器	深鉢	—	4.7	—	砂粒	にぶい褐色	普通	橋状把手	表採	5%
27	土師器	坏	(10.4)	(1.1)	7.0	砂粒・長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	底部一方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き。	E6区周辺の撹乱中	内面黒色処理，20%
28	土師質土器	小皿	7.4	2.1	4.7	砂粒・長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	底部外面回転糸切り痕，内面ナデ。	D6区周辺の撹乱中	口縁部油煙付着，100%　PL 7
29	土師質土器	小皿	7.7	2.2	5.7	砂粒・長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	底部外面回転糸切り痕，内面ナデ。	D6区周辺の撹乱中	口縁部油煙付着，100%　PL 7
30	土師質土器	小皿	(6.7)	1.8	(3.3)	砂粒・石英	にぶい橙色	普通	底部外面回転糸切り痕	D6c1表採	底部外面墨書「申」ヵ，60% PL 7
31	土師質土器	小皿	9.9	2.1	7.2	砂粒	にぶい黄橙色	普通	底部外面回転糸切り痕	D5区周辺の撹乱中	20%

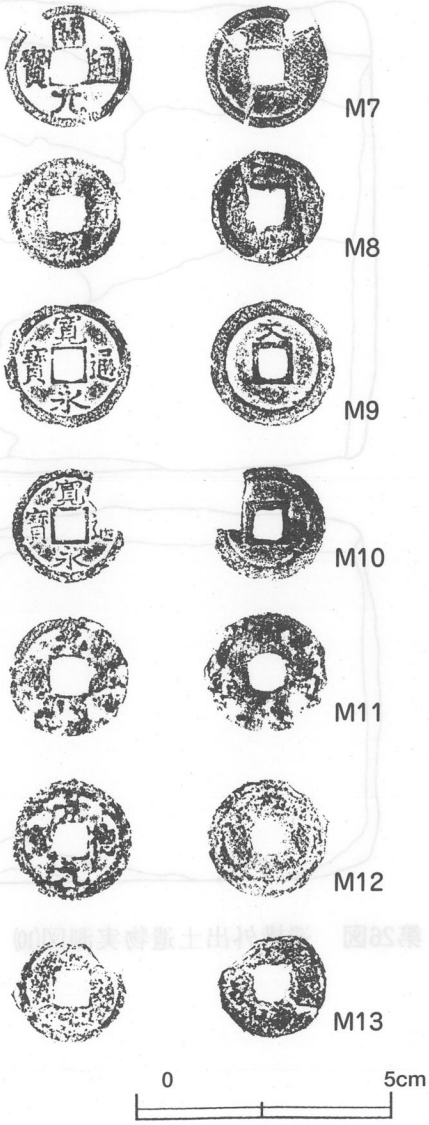


第26図　遺構外出土遺物実測図(10)

遺構外出土遺物観察表（第18図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法	出土位置	備　考
32	土師質土器	小皿	8.0	2.1	4.7	砂粒・雲母	明赤褐色	普通	内・外面ロクロナデ	D５区周辺の撹乱中	35%
33	土師質土器	小皿	7.5	2.3	3.7	砂粒・長石・雲母	明赤褐色	普通	内・外面ロクロナデ	D５区周辺の撹乱中	口縁部油煙付着，30%
34	土師質土器	小皿	7.5	(1.9)	—	砂粒・長石	褐灰色	普通	内・外面ロクロナデ	D５区周辺の撹乱中	口縁部油煙付着，20%
35	土師質土器	小皿	6.6	2.9	4.0	砂粒・石英・雲母	黒褐色	不良	底部外面回転糸切り痕	E６区周辺の撹乱中	30%
36	土師質土器	小皿	11.9	(3.2)	7.2	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	普通	底部外面回転糸切り痕	E６区周辺の撹乱中	底部外面ヘラ記号「丨」ヵ，60%
37	土師質土器	小皿	8.4	2.3	5.5	砂粒・雲母	黒　色	不良	底部外面回転糸切り痕	D６区周辺の撹乱中	30%
38	土師質土器	小皿	8.3	2.0	—	砂粒・雲母	黒　色	不良	内・外面ロクロナデ	D６区周辺の撹乱中	丸底，40%
39	土師質土器	小皿	7.6	1.8	5.5	砂粒・雲母	にぶい赤褐色	普通	内・外面ロクロナデ	D６区周辺の撹乱中	底部やや突出，20%
40	土師質土器	小皿	8.0	2.3	4.1	砂粒・雲母・長石	にぶい橙色	普通	内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り痕。	D６区周辺の撹乱中	20%
41	土師質土器	小皿	—	1.1	4.4	砂粒・雲母	にぶい赤褐色	普通	底部外面回転糸切り痕	D６区周辺の撹乱中	底部やや突出，30%





第27図　遺構外出土遺物実測図(11)

遺構外出土遺物観察表（19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
42	土師質土器	小皿	8.1	1.7	3.4	砂粒・雲母	暗赤褐色	不良	底部外面回転糸切り痕	表採	口縁部油煙付着，15%
43	土師質土器	小皿	8.1	1.7	5.4	砂粒・長石・石英・雲母	黒色	普通	底部外面回転糸切り痕	E 5 a8表採	20%
44	土師質土器	小皿	7.0	2.4	—	砂粒・長石・雲母	にぶい赤褐色	良好	内・外面ロクロナデ	E 5 a7表採	丸底，40%
45	陶器	卸.皿	—	(1.1)	7.6	砂粒	灰色 明緑灰色	良好	底部外面回転糸切り痕。底部内・外面灰釉施釉。	D 5 区周辺の撹乱中	古瀬戸後期，20%
46	陶器	丸碗	10.6	6.9	5.5	砂粒	灰色 浅黄色	普通	削り出し高台。高台部を除き，灰釉施釉。	D 6 区周辺の撹乱中	瀬戸・美濃系，70%　PL 8
47	陶器	丸碗	11.2	(5.6)	4.9	砂粒	灰色 緑灰色	良好	高台部畳付無釉	E 6 区周辺の撹乱中	瀬戸・美濃系，30%　PL 8
48	陶器	緑釉小皿	9.5	2.4	4.7	砂粒・雲母・黒色粒子	灰色 緑灰色	良好	口縁部内・外面灰釉施釉	E 6 区周辺の撹乱中	古瀬戸後期，20%　PL10
49	陶器	平碗	17.6	5.0	—	砂粒・雲母	灰白色 オリーブ	普通	口縁部・体部内・外面灰釉施釉	C 4 i5表採	古瀬戸後期，30%　PL10
50	陶器	灰釉小皿	(11.0)	3.1	(6.0)	砂粒・雲母・長石	灰白色 オリーブ	普通	底部を除き，内・外面灰釉施釉。内・外面重ね焼き痕。	C 4 i5表採	古瀬戸後期，20%　PL10
51	陶器	天目茶碗	(7.9)	(1.8)	4.7	砂粒	灰色 黒褐色	普通	体部内面鉄釉施釉	E 5 b8表採	瀬戸・美濃系（大窯期ヵ），20%

遺構外出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
52	陶器	平碗	(12.2)	(3.2)	(4.8)	砂粒	黄灰色 緑灰色	普通	高台部削り出し。体部内・外面灰釉施釉。	C 3j0表採	古瀬戸後期，30% PL10
53	陶器	緑釉小皿	—	(1.6)	4.8	砂粒・黒色粒子	黄灰色 オリーブ	良好	底部回転糸切り痕	D 2 区周辺の撹乱中	古瀬戸後期，20%
54	陶器	瓶	(13.4)	(6.0)	11.5	砂粒	灰色 褐色	普通	体部内・外面錆釉施釉	E 6 区周辺の撹乱中	瀬戸・美濃系，10% PL 8
55	陶器	染付丸碗	9.6	(3.5)	--	砂粒	白色 灰白色	普通	体部内・外面透明釉施釉	表採	肥前系，30% PL10
56	陶器	丸碗	—	(1.9)	4.0	砂粒	灰黄色 浅黄色	普通	高台部を除き，灰釉施釉	表採	瀬戸・美濃系，20% PL10
57	陶器	瓶	—	(2.9)	8.0	砂粒	灰黄色 暗オリーブ	普通	体部外面灰釉施釉	表採	瀬戸・美濃系，10% PL10
58	陶器	甕	—	(4.8)	15.9	砂粒	褐色	普通	底部重ね焼き痕	表採	常滑，10% PL10

遺構外出土遺物観察表（第20・21・23・24図）

番号	種別	部位	計測値（cm）								材質	特徴	出土位置	備考
			全高	空輪高	風輪高	ホゾ高	空輪径	くびれ部径	風輪径	ホゾ径				
Q26	五輪塔	空風輪	(15.2)	(15.2)	—	—	(17.7)	—	—	—	花崗岩		D 5 区表採	空風輪空輪部の90%
Q27	五輪塔	空輪部	(8.4)	(8.4)	—	—	14.9	—	—	—	花崗岩		D 5 区表採	空風輪空輪部の40%
Q28	五輪塔	空風輪	22.4	13.6	(8.8)	—	15.7	11.0	(13.6)	—	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ不明瞭	C 6i2表採	70% PL11
Q29	五輪塔	空風輪	19.2	11.9	7.3	—	16.0	11.5	(12.4)	—	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ不明瞭	D 5 区表採	80% PL11
Q30	五輪塔	空風輪	(19.4)	11.3	(6.7)	1.4	16.2	(12.9)	(13.6)	(5.7)	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ不明瞭	D 5 区表採	60%
Q31	五輪塔	空風輪	(14.7)	(6.7)	8.0	—	(15.5)	10.0	(11.7)	—	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ不明瞭	D 5 区表採	40%
Q32	五輪塔	空風輪	(19.8)	(11.5)	(8.7)	—	(15.8)	(12.3)	(14.5)	—	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ不明瞭	D 5 区表採	80%
Q33	五輪塔	空風輪	(18.5)	(10.5)	(7.6)	—	(15.1)	(12.3)	(13.5)	—	花崗岩	空輪部と風輪部とのくびれ不明瞭	D 5 区表採	60%
Q34	五輪塔	空風輪	(22.9)	(13.7)	(8.7)	—	16.7	13.3	16.3	—	花崗岩		D 6 区周辺の撹乱中	80% PL11
Q35	五輪塔	空風輪	(8.3)	—	8.3	—	—	—	12.8	—	花崗岩		D 5 区周辺の撹乱中	空風輪風輪部の70%
Q36	五輪塔	風輪部	9.0	—	9.0	—	—	10.2	15.7	—	花崗岩		D 5 区周辺の撹乱中	空風輪風輪部の80%
Q43	五輪塔	空輪	14.2	(13.4)	—	—	(20.5)	—	—	—	花崗岩		D 5 区表採	空風輪空輪部の60%

遺構外出土遺物観察表（第22・23・24・25図）

番号	種別	部位	計測値（cm）								材質	特徴	出土位置	備考
			全高	斜部高	軒厚	軒反厚	上面幅	軒幅	ホゾ深	ホゾ径				
Q37	五輪塔	火輪	19.1	11.5	6.2	7.5	14.6	42.0	—	—	花崗岩	軒口外傾。軒の上部がわずかに戻る。	D 6 区周辺の撹乱中	100% PL11
Q38	五輪塔	火輪	12.2	7.2	3.9	7.0	9.3	28.9	—	—	花崗岩	軒口外傾。軒の上部がわずかに戻る。	D 6 区周辺の撹乱中	100% PL11
Q39	五輪塔	火輪	14.0	(9.0)	(4.5)	(5.5)	10.0	30.5	—	—	花崗岩	軒口外傾。軒の上部がわずかに戻る。	D 5 区表採	90% PL11
Q40	五輪塔	火輪	19.0	(8.5)	5.4	7.5	(13.2)	(38.7)	—	—	花崗岩	軒口外傾。軒の上部がわずかに戻る。	D 5 区表採	90% PL12
Q41	五輪塔	火輪	17.2	11.2	4.9	7.0	7.5	(30.4)	—	—	花崗岩	軒口外傾。軒の上部がわずかに戻る。	D 5 区表採	95% PL12
Q42	五輪塔	火輪	(11.1)	6.2	4.9	6.5	(7.0)	(21.6)	—	—	花崗岩	軒口外傾。軒の上部がわずかに戻る。	D 5 区表採	70%

遺構外出土遺物観察表（第24図）

番号	種別	部位	計測値（cm）				材質	特徴	出土位置	備考
			全高	上面径	最大径	下面径				
Q44	五輪塔	水輪	14.2	(14.0)	(22.2)	(13.8)	花崗岩		D 5 区表採	50%
Q45	五輪塔	水輪	12.3	(10.5)	20.4	15.0	花崗岩		D 5 区表採	90% PL12

遺構外出土遺物観察表（第25・26・27図）

番号	種別	部位	計測値(cm) 全高	上面幅	下面幅	材質	特徴	出土位置	備考
Q46	五輪塔	地輪	20.5	(23.5)	(22.5)	花崗岩		D6区周辺の撹乱中	80%
Q47	五輪塔	地輪	20.0	26.6	28.3	花崗岩		D5区表採	70% PL12
Q48	五輪塔	地輪	(14.4)	24.8	(27.4)	花崗岩		C6i3表採	70%
Q49	五輪塔	地輪	20.6	27.2	28.8	花崗岩		D5区表採	95%

遺構外出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	部位	計測値(cm) 全高	宝珠高	上請花高	九輪高	下請花高	伏鉢高	ホゾ高	宝珠径	上請花径	九輪径	下請花径	伏鉢径	ホゾ径	材質	特徴	出土位置	備考
Q50	宝篋印塔	相輪部	—	—	—	(5.0)	16.3	4.5	7.0	—	—	13.2	16.3	17.0	10.6	花崗岩		D5区表採	40% PL12
Q51	宝篋印塔	相輪部	(15.2)	—	—	(15.2)	—	—	—	—	—	12.5	—	—	—	花崗岩		D5区表採	20% PL12

遺構外出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	部位	計測値(cm) 全高	上段高	隅飾高	軒高	下段高	上面幅	隅飾幅	軒幅	下面幅	ホゾ深	ホゾ径	材質	特徴	出土位置	備考
Q52	宝篋印塔	笠部	(19.4)	—	11.8	4.5	(3.1)	—	11.5	(13.0)	—	—	—	花崗岩	馬耳状の隅飾突起部	D5区表採	笠部の10% PL12

遺構外出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	部位	計測値(cm) 全高	基部高	窓高	上面幅	下面幅	窓幅	ホゾ径	材質	特徴	出土位置	備考
Q53	宝篋印塔	塔身部	20.5	16.9	11.6	18.0	17.5	13.1	9.0	花崗岩		D5区表採	90% PL12

遺構外出土遺物（第27図）

番号	銭名	計測値 銭径(cm)	穿孔幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
M7	開元通寶	2.5	0.6×0.6	0.1	2.0	銅	背面無文	D6区周辺の撹乱中	90% PL10
M8	寛永通寶	2.3	0.7×0.7	0.1	2.0	銅	背面無文。初鋳年元禄10年（1697年）	E6区周辺の撹乱中	100% PL10
M9	寛永通寶	2.5	0.6×0.6	0.1	2.5	銅	裏に「文」。初鋳年元禄10年（1697年）	E6d7周辺の表採	100% PL10
M10	寛永□寶	2.3	0.6×0.6	0.1	2.0	銅	背面無文。初鋳年元禄10年（1697年）	E6d7周辺の表採	70% PL10
M11	元□□□	2.4	0.7×0.7	0.1	2.0	銅	背面無文	D5区周辺の撹乱中	95%
M12	景元□寶	2.4	0.7×0.7	0.1	2.0	銅	背面無文	D5区周辺の撹乱中	90%
M13	寛永通寶	2.1	0.7×0.7	0.1	1.8	銅	背面無文。初鋳年元禄10年（1697年）	D6区周辺の撹乱中	70%

第4節　ま　と　め

今回の調査で当遺跡から確認された遺構は，竪穴住居跡１軒，溝跡21条，地下式壙１基，井戸跡３基，土坑墓２基，土坑224基である。ここでは，各時代の主な遺構と遺物について概要を述べるとともに，当遺跡で確認された中世の遺構と当遺跡付近に所在したとの記録が残る大聖寺[1)2)]との関係を調査結果や関連資料から考察し，まとめとしたい。

1　縄　文　時　代

縄文時代の遺構は確認できなかった。遺構に伴わない遺物で確認できた時期は，縄文早期，前期（浮島式期），中期（加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期）である。以上のことから，早期から中期後葉にかけて生活の場として利用されていたことが窺える。

2　奈　良　時　代

今回の調査で確認できた遺構は，8世紀後葉の住居跡１軒（第１号住居跡）だけであるが，当遺跡の東側約300m付近には奈良・平安時代の西平塚シタ遺跡[3)]が所在し，本跡は遺跡との関連も考えられる。

3　中　・　近　世

中世の遺構としては，溝跡５条，地下式壙１基，井戸跡３基，土坑墓２基が確認できた。溝跡の時期は，形状や出土遺物（土師質土器小皿，古瀬戸平碗，古瀬戸花瓶，五輪塔，宝篋印塔）から14世紀代から16世紀前半と考えられ，土坑墓の時期も，出土遺物（板碑，古銭）から中世以降と考えられる。このほか，確認された224基の土坑の中にも，骨片が検出されて土坑墓の可能性があるものが存在する。また，表面採集や撹乱から検出された遺物の中にも中世と考えられるものが数多く出土している。土師質土器の小皿は，15世紀代を中心として14世紀後半から16世紀代にかけてのものが検出され，陶器では，古瀬戸の卸皿，緑釉小皿，平碗等が出土し，古瀬戸後期の15世紀代のものが多くみられる。また，石造物としては，五輪塔片と宝篋印塔片が出土している。時期を判断できる部位が残存しているものとして，15世紀初めから中葉の五輪塔空風輪部１点，15世紀中葉から後葉の五輪塔空風輪部１点，火輪部３点，15世紀末葉から16世紀初めの五輪塔空風輪部と火輪部が各３点，16世紀初めから中葉の五輪塔空風輪部１点，16世紀中葉から後葉の五輪塔空風輪部１点，16世紀代と考えられる五輪塔空風輪部１点，宝篋印塔の相輪部１点，笠部１点，塔身部１点であるが，いずれも風化が進んでいる。

以上のように，14世紀代から16世紀後葉までの寺や墓城に関連する遺物の出土が多く，当遺跡は寺院跡や墓城の可能性があり，内耳鍋等の生活に密着した遺物がほとんど出土していない。

『小田孝朝下文』[1)]によると，南北朝時代の応安７年（1374年），小田氏の当主小田孝朝が小田四ヶ寺を設けたのを機に，現在の土浦市永国に所在していた今泉寺を羽黒山今泉院大聖寺と改め，寺地を田中荘平塚（現在のつくば市西平塚）に移転したとされる。さらに『亮恵僧正門弟名帳』[4)]には，大永６年（1526年）に常陸国永国今泉院大聖寺として再び土浦市永国に戻ったことが記されている。また，『葛城村史』にも「大聖寺が西平塚にありしことは，貞享絵図に明示さらるるを以て疑うべくもあらざれど，之を永国に遷されたる年代に至っては詳ならず。其移転に就ては，平塚の人も亦永国の人も，かかる俗説あるを知れど，今の永国の大聖寺が平塚にありしそれなりしかは，素より知るものあらざるなり。…」との記述がある。さらに，『葛城村史』に掲載されている貞享絵図『苅間・平塚・面野井・酒丸・高田村の野境争い裁許絵図』貞享５年（1688年）[5)]と

現況図を比較してみると，当遺跡の調査区域内に「大聖寺内畑」という文字と建物の絵が確認でき，堂宇の存在が想定される。

しかし，今回の調査では，撹乱が激しいため大聖寺の存在を直接的に物語る遺構は確認できなかったが，遺物の時期や絵図の位置や時期ではかなり合致している部分があり，大聖寺が当調査区域に隣接して所在した可能性は否定できない。

註）

1）『小田孝朝下文』 羽黒山大聖寺所蔵

2）千勝義重 『葛城村史』 1990年

3）つくば市教育委員会 『つくば市遺跡地図』 2001年７月

4）『亮恵僧正門弟名帳』 京都府東寺所蔵

5）谷田部の歴史編さん委員会 『谷田部の歴史』 1973年９月

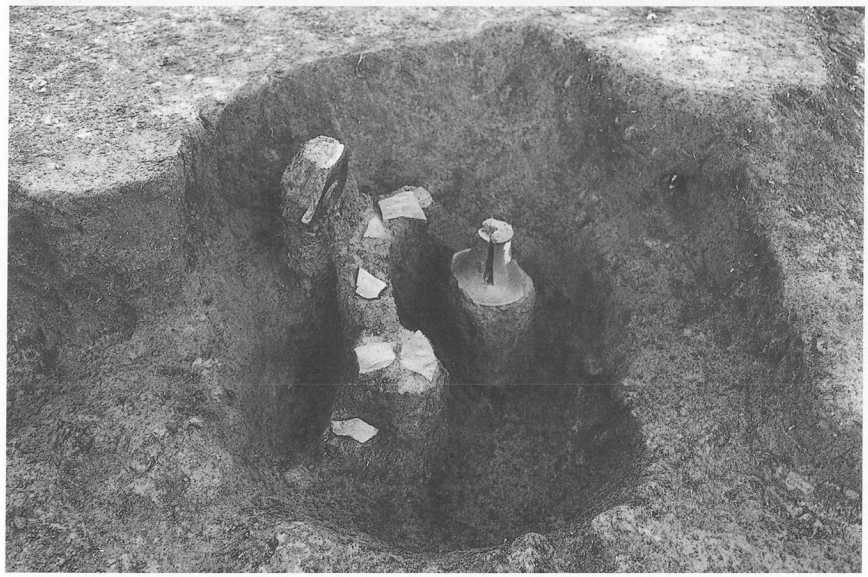
写　真　図　版

完掘状況（西から）

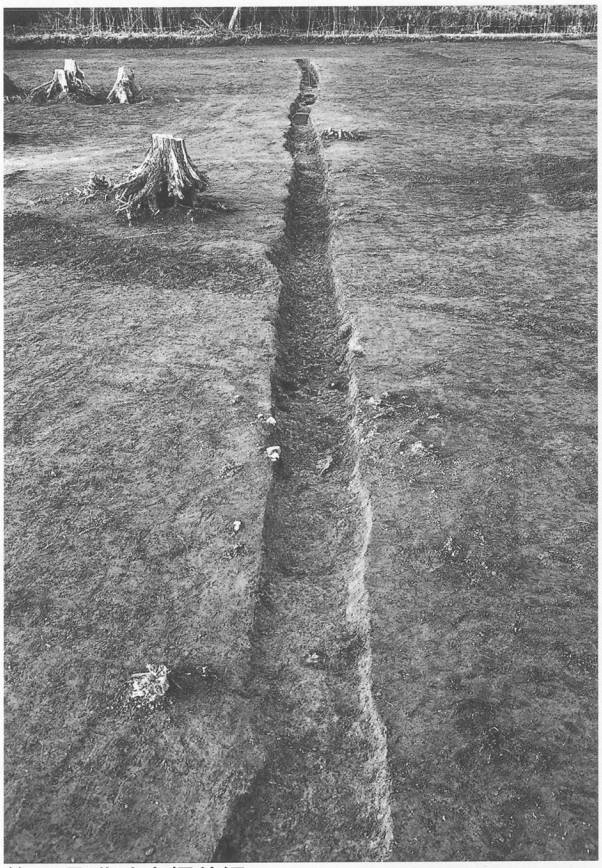
完掘状況（東から）

第1号住居跡完掘状況

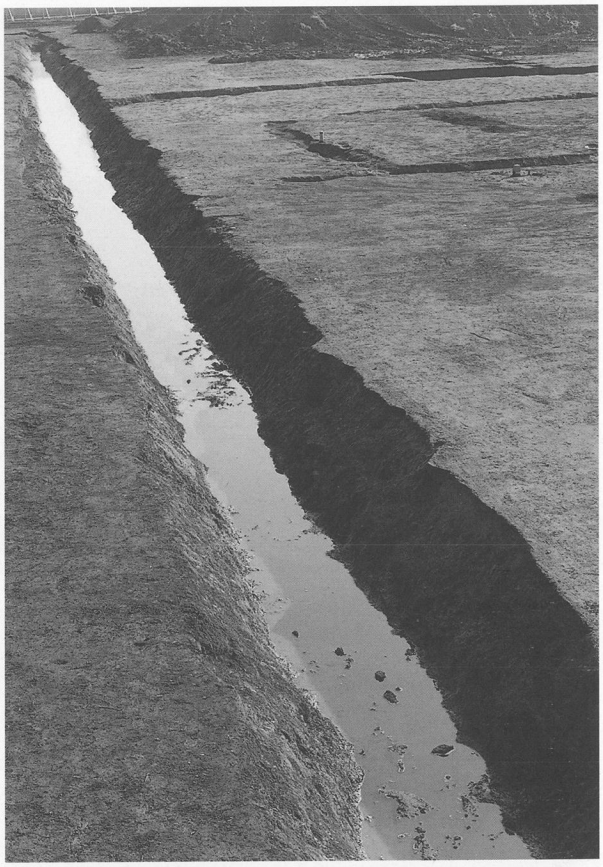
第1号住居跡遺物出土状況



第1号住居跡竈遺物出土状況

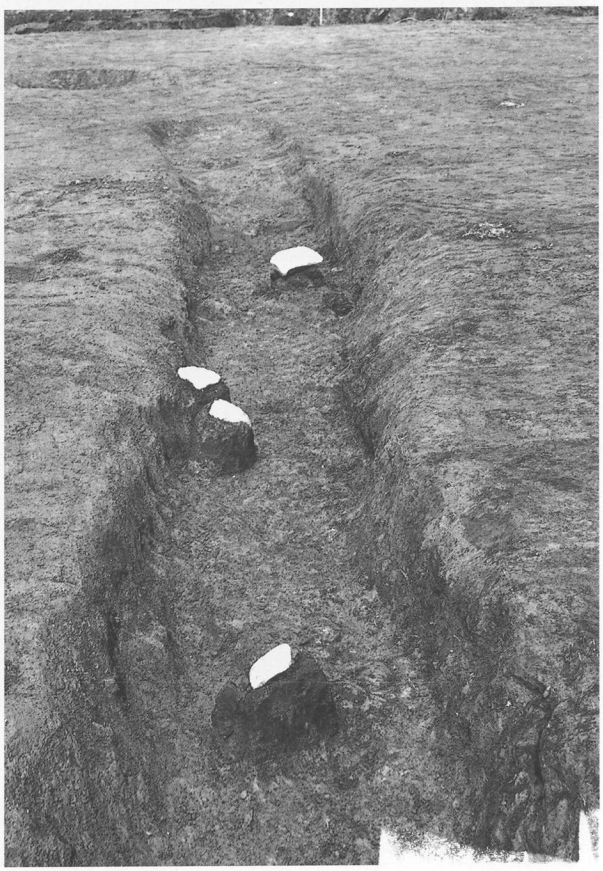


第12号溝跡完掘状況



第13号溝跡完掘状況

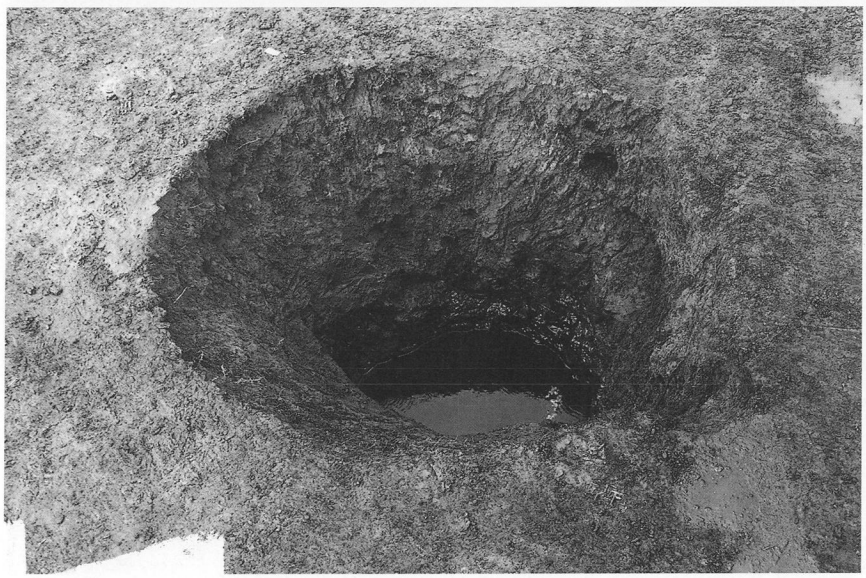
第14号溝跡完掘状況



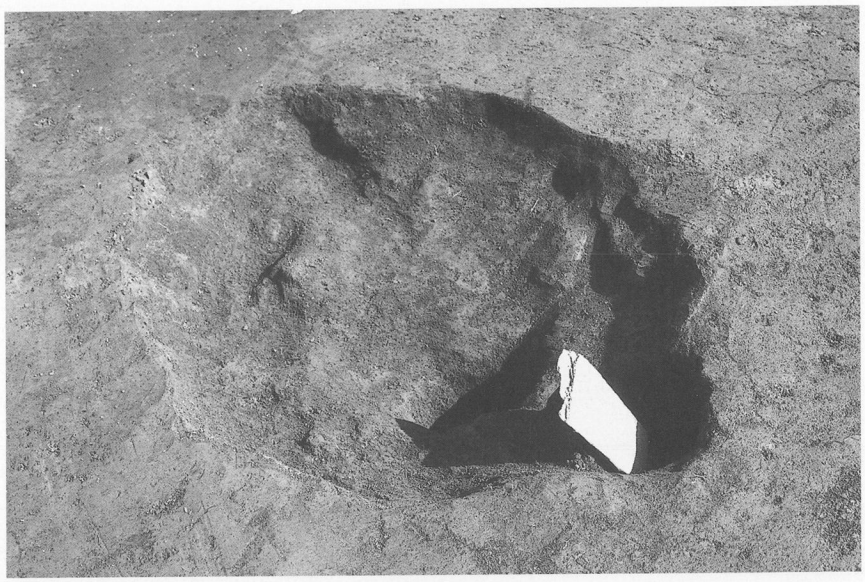
第8号溝跡遺物出土状況

第1号地下式壙完掘状況

第1号井戸跡完掘状況



第2号井戸跡完掘状況

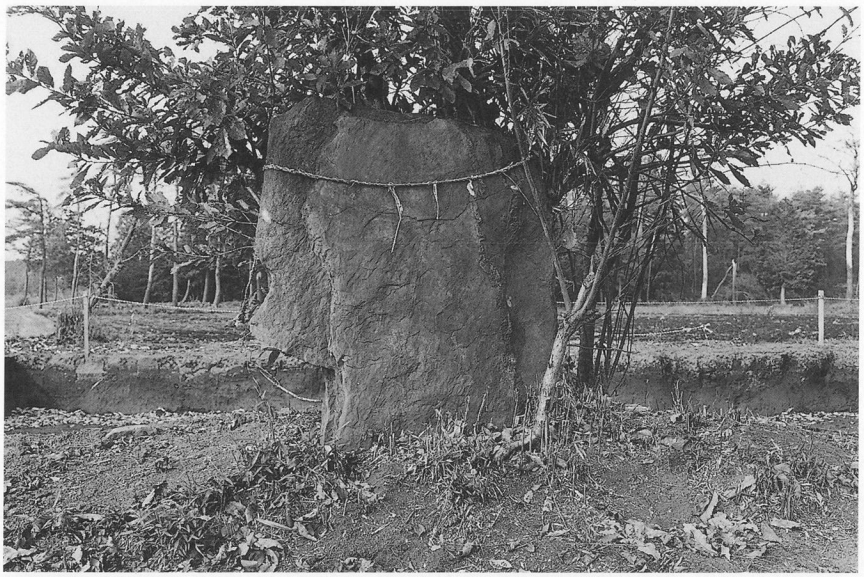


第21号土坑遺物出土状況

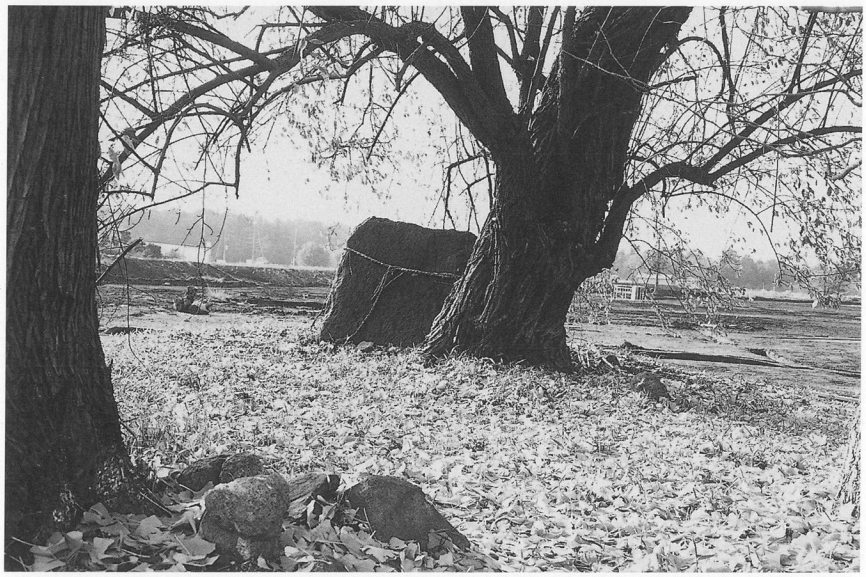
第35号土坑完掘状況
（第7号溝跡と重複）

土坑集中区，
第7・8・9号溝跡完掘状況

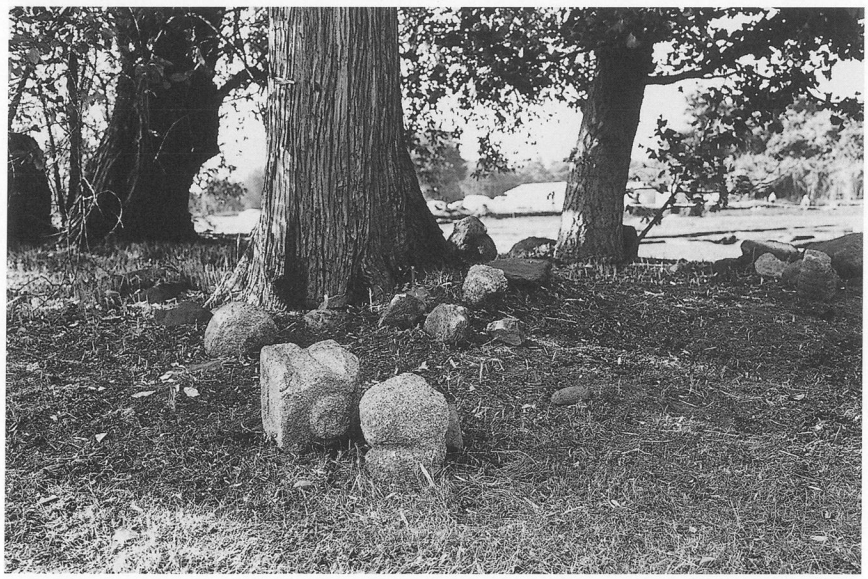
PL 6



立石（お羽黒様）確認状況



立石（天神様）確認状況



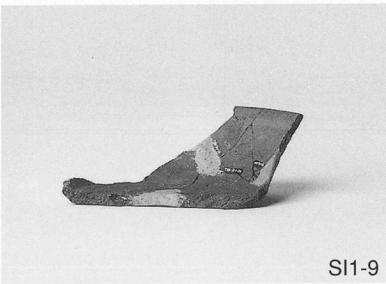
五輪塔・宝篋印塔集積状況

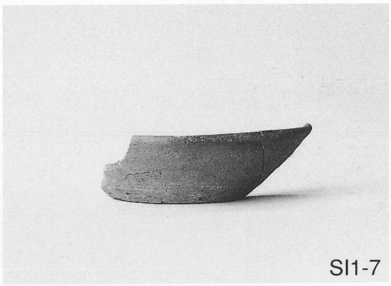
遺構外-28

遺構外-29

遺構外-30

SD15-23

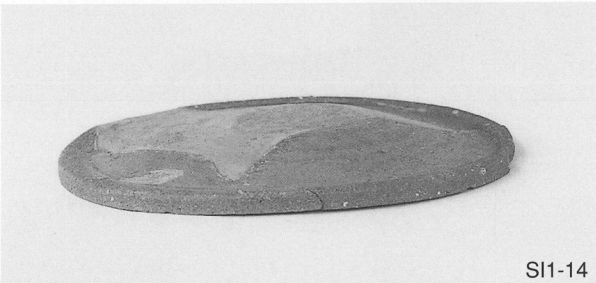

SI1-9


SI1-7

SI1-4

SI1-3

SI1-13

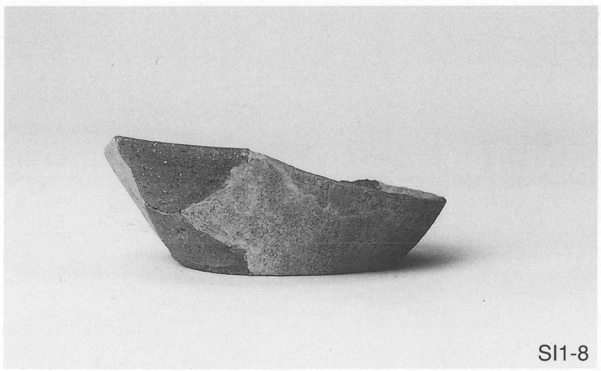

SI1-14

SI1-2

SI1-16

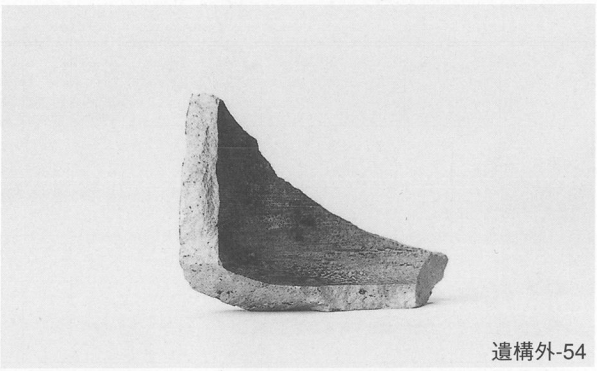
SD6-20

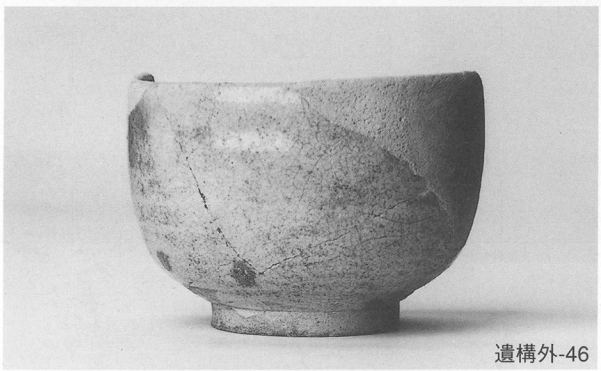
第1号住居跡，第6・15号溝跡，遺構外出土遺物

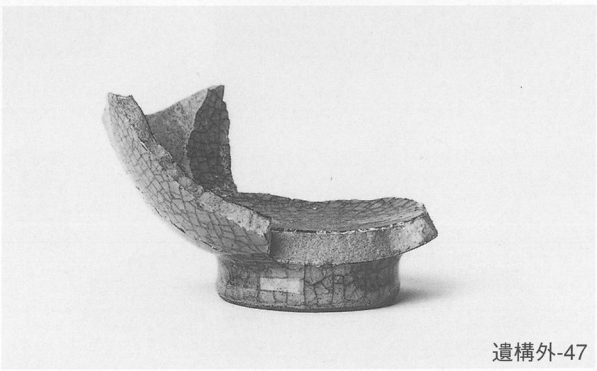

SI1-8

SI1-6

SI1-5


遺構外-54

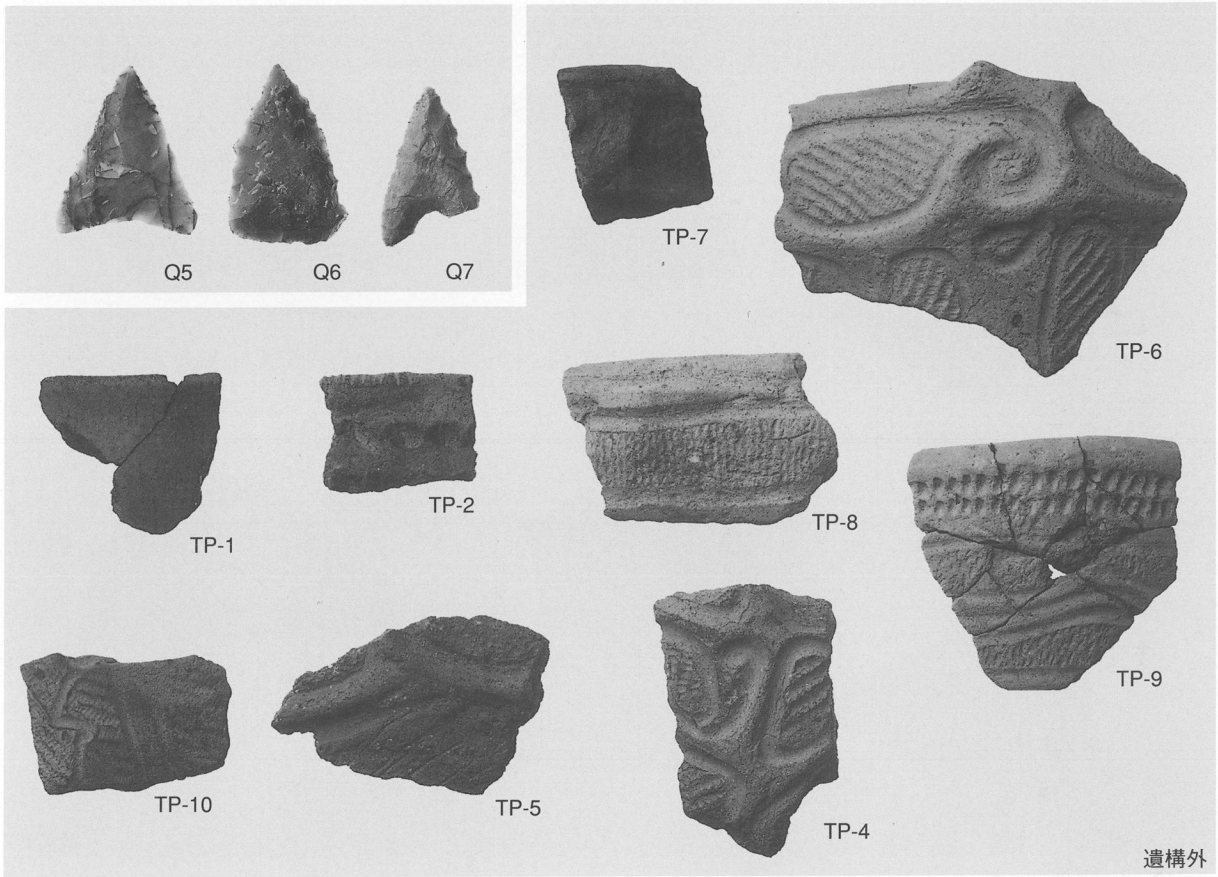

遺構外-46

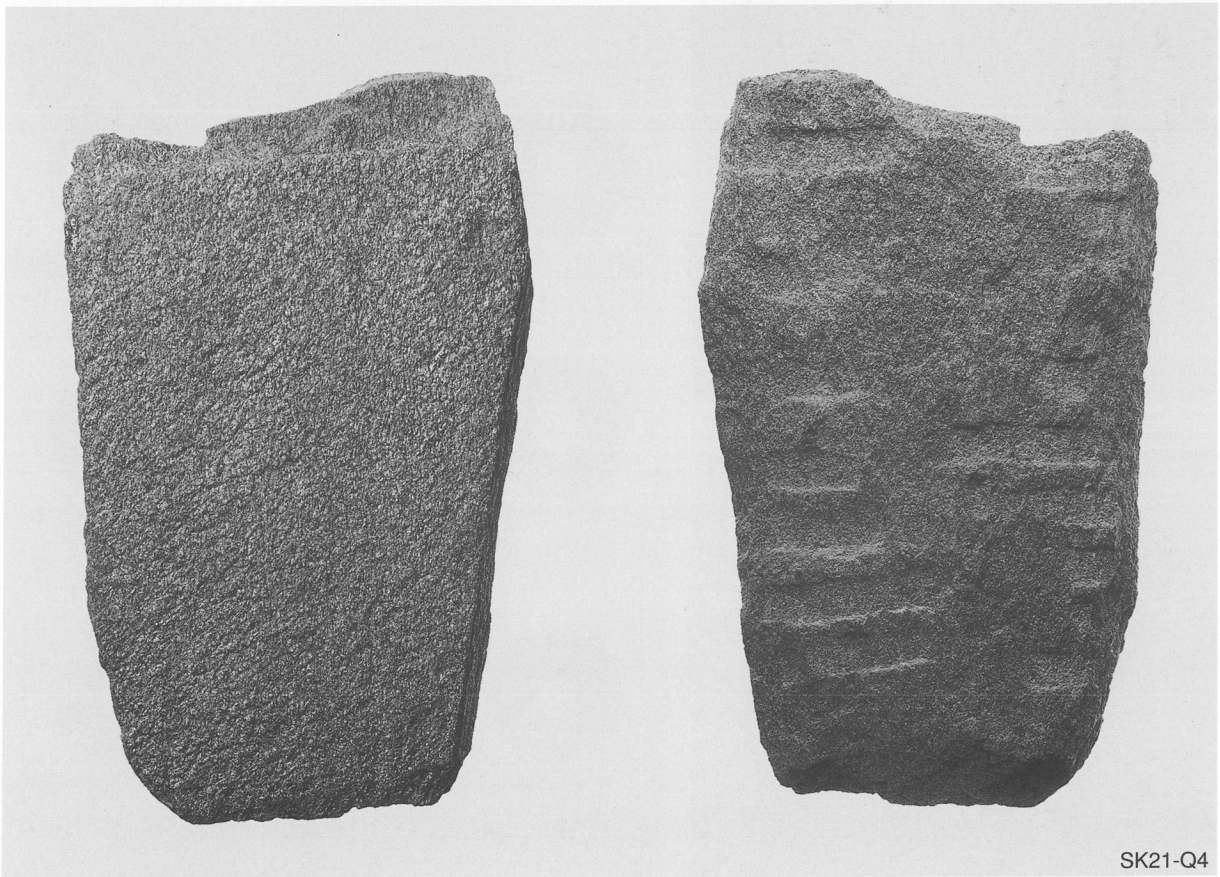

遺構外-47

遺構外-24

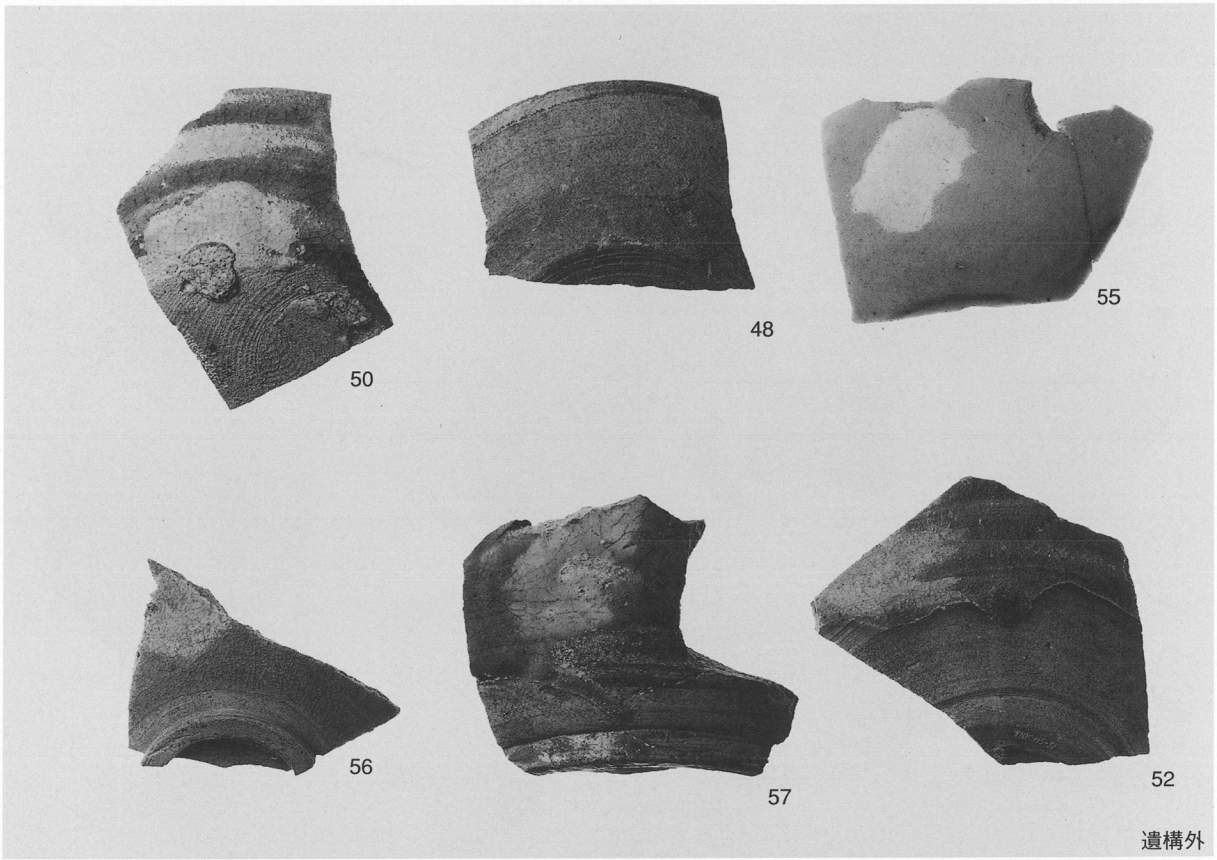
SI1-15

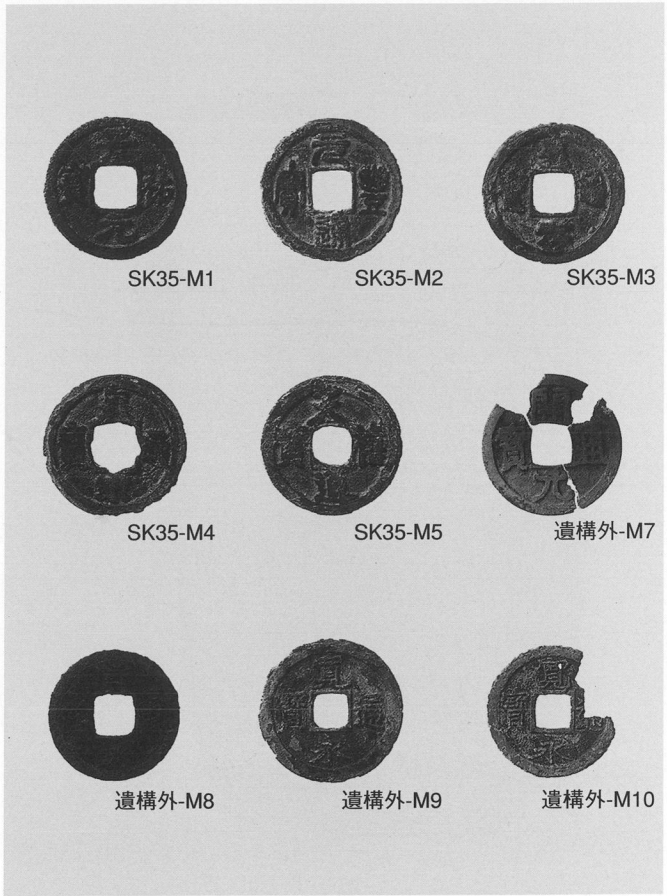
第1号住居跡・遺構外出土遺物



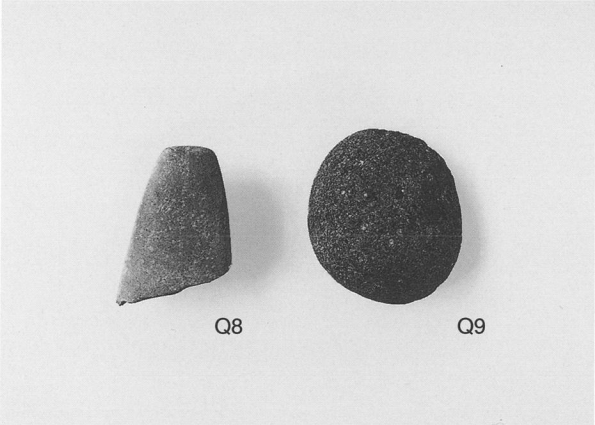


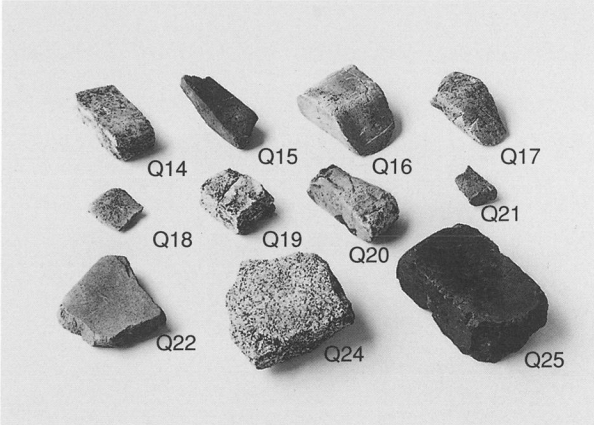
第21号土坑・遺構外出土遺物

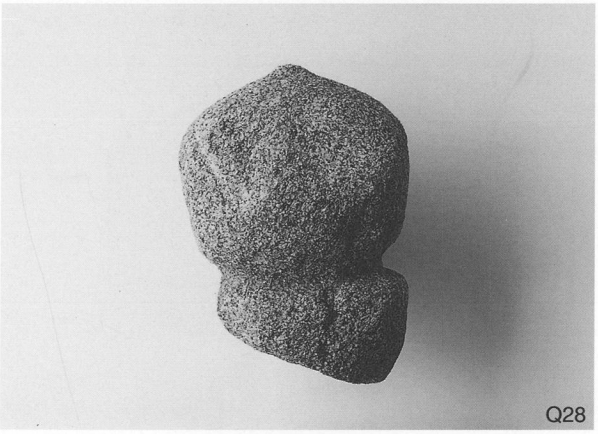




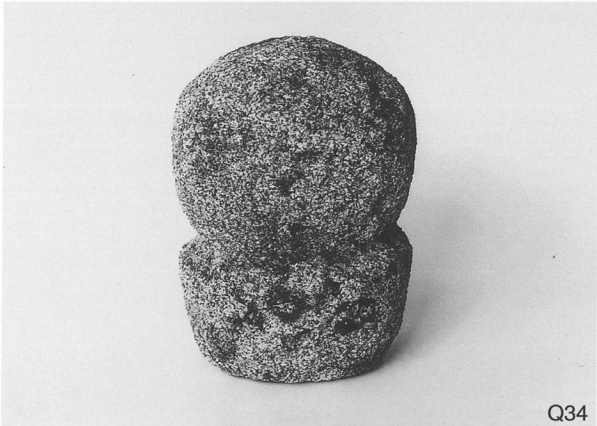
第1号溝跡・第35号土坑・遺構外出土遺物


Q8
Q9


Q14
Q15
Q16
Q17
Q18
Q19
Q20
Q21
Q22
Q24
Q25


Q28

Q29


Q34

Q37

Q38

Q39

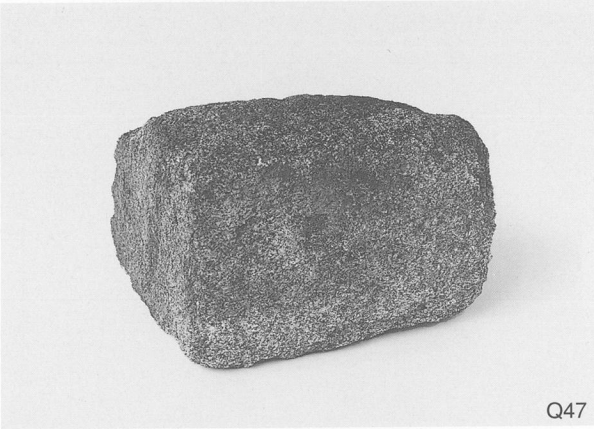
遺構外出土遺物

PL 12

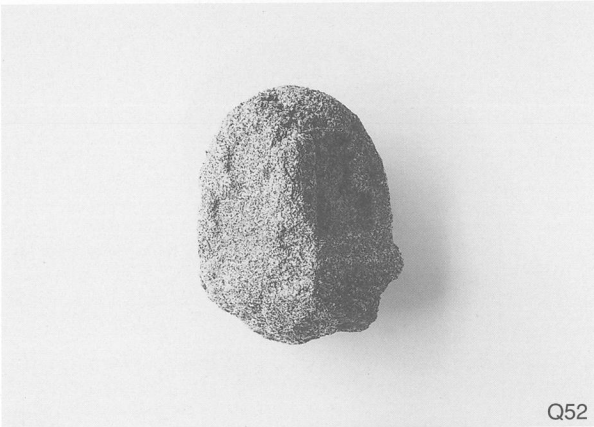
Q40

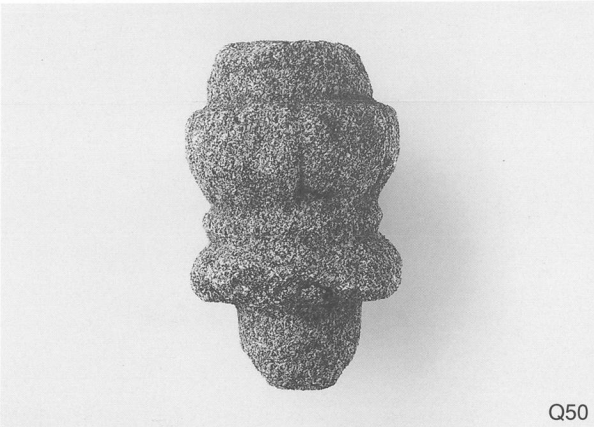
Q41

Q45


Q47

Q51


Q52


Q50

Q53

遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第196集

西平塚梨ノ木遺跡

平成14（2002）年3月21日　印刷
平成14（2002）年3月25日　発行

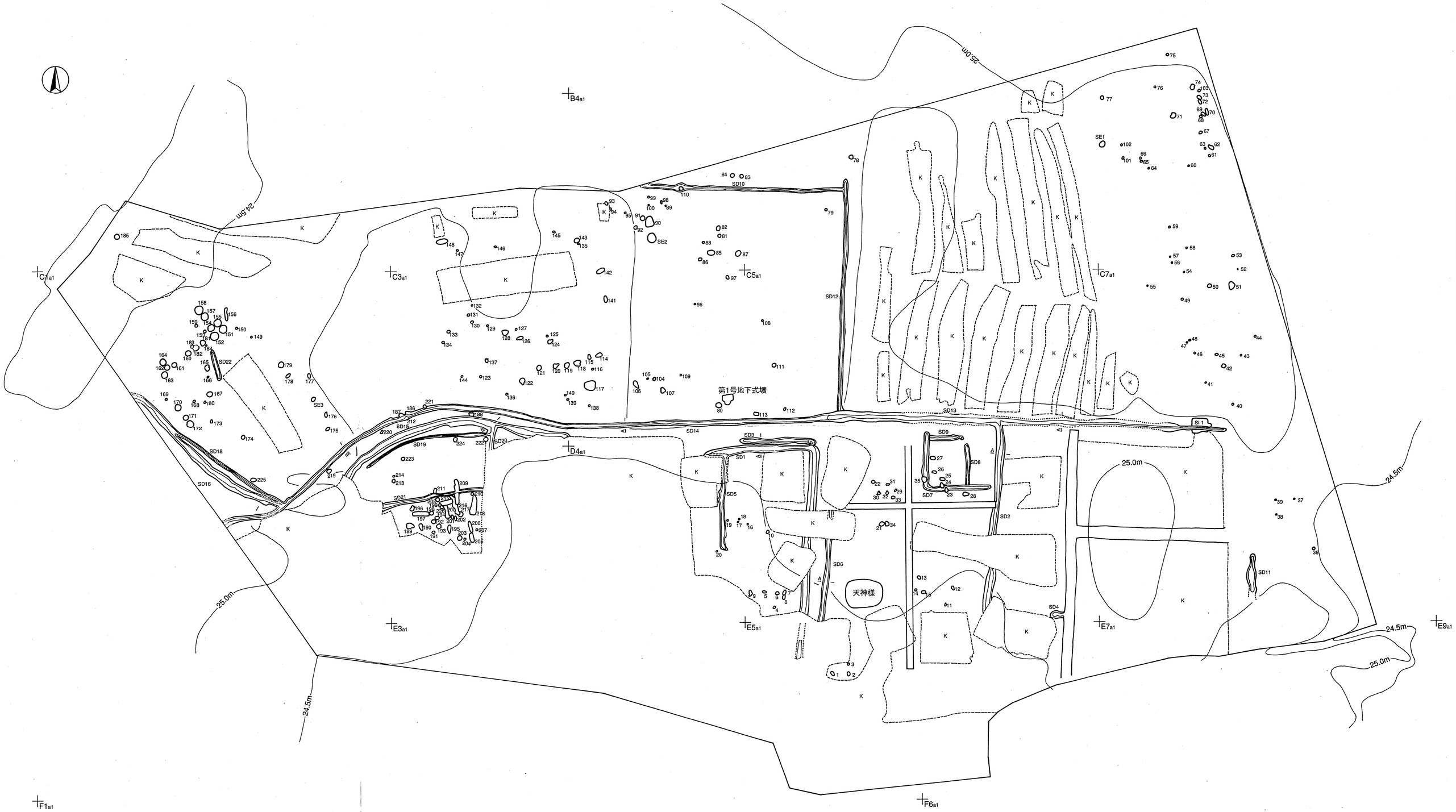
発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310-0911　水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
ＴＥＬ　029－225－6587

印刷　株式会社　高野高速印刷
〒310-0035　水戸市東原2－8－1
ＴＥＬ　029－231－0989

付　　図

茨城県教育財団文化財調査報告第196集

西平塚梨ノ木遺跡遺構全体図



茨城県教育財団文化財調査報告第196集　付図

西平塚梨ノ木遺跡遺構全体図